



一隅を照らす運動総本部だより
No. 53



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<https://ichigu.net>

一隅を照らす運動発足 五十周年記念式典

令和元年十一月五日に延暦寺会館大ホールを会場に一隅を照らす運動発足五十周年記念式典を開催した。

はじめに森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より開会の辞があり、大樹孝啓一隅を照らす運動会長を導師に法楽を厳修した。

法楽後の挨拶で大樹会長は「発足五十周年事業が無事に満願できた。次は百年ですが、そんなことを言わずに、十年先はどうしたらいいのかという思いで新しい出発をしなければなりません。楽しみであり、期待も大きい。そういう気持ちでこの発足五十周年の一連の事業を終わらせていただきたい」と、将来を見据えられた。

また、杜多道雄一隅を照らす運動理事長は、「今日の世相は自己中心的な考え方が蔓延し、思いやりの心が無くなってしまっただけりでなく、自己責任論まで主張される始末です。今ほど宗祖大師が示された忘己利他の実践が求められている時はない。令和の新時代にふさわしく、希望に満ちあふれた日本を作っていく運動として、皆様と共にこの運動の輪を大きく広げ、心豊か

な美しい国を作り上げていきたい」と決意を述べた。

来賓代表として、鳥井信吾サントリーHD副会長は「各現場の一隅に光を当てることができなければ、企業経営もうまく回らない。一隅を照らすことが出来なくなるということは、企業は当然ながら国家の衰退の原因になってくると思われまます。伝教大師は一千二百年前にあって、一隅を照らす



といわれましたが、今こそ必要な精神でありましょう」と経営者の視点を交えながら、期待感を示した。

記念講話には、一隅を照らす運動顧問である杉谷義純妙法院門跡門主を招聘し「一隅を照らす―五十周年に思う―」と題してご講話いただいた。

まず運動の歴史や運動理念について改めて振り返った杉谷顧問は、一般に広く啓蒙する方法や、各教区で開催される大会等の内容を提言した。

そして「みなさんが各教区で頑張られて地方大会も充実してきた。しかしそのまま受け継いだのではもったいない。これを更に自分らの代で弘めて欲しい。一隅を照らす運動は、自分がいる場所は一隅であり、そこに己を忘れているか、自分のことを棚において、一生懸命に人のためになることをしようということが一隅を照らすことだと思う。この精神をもう一度研究してなんとか、いままでから半歩でも進めて欲しい」と呼びかけ、方向性を示した。

また照隅祭で協賛、協力した九団体に、杜多理事長から感謝状が贈呈され、最後は小堀光實一隅を照らす運動副理事長（延暦寺執行）の閉式の辞で幕を閉じた。

○一隅を照らす運動発足 五十周年記念「照隅祭」

令和元年十一月二〜四日、一隅を照らす運動発足五十周年を記念し、伝教大師が開かれた比叡山延暦寺にて、希望や喜びに繋がる光を見つけてもらおうと、体感型カルチャーイベント「照隅祭」を東塔、西塔エリアにて開催した。

東塔会場では、写仏や梵字彫り、京提灯づくりなどの伝統工芸ワークショップ、また健康作りの一助となるヨガ教室、大書院ではTSUTAYAとコラボした「大書院BOOKSTORE」など、自分自身を高める企画を用意。

西塔会場では釈迦堂前に特設ステージを設け、関西を代表する吹奏楽の名門校である大阪桐蔭高等学校（二日）をはじめ、比叡山高等学校（三日）、菟道高等学校（四日）が、人気アーティストや天台宗僧侶による声明と共演した。

三日間とも多くの参加者にお越しいただき、盛会であった。

〈東塔エリア〉

◎大書院 BOOKSTORE produced
by TSUTAYA

本・文化の発信拠点「TSUTAYA B

OOKSTORE」とのコラボレーションとして、通常非公開となっている大書院に期間限定TSUTAYA BOOKSTORE特別バージョンとして実施した。「命」「平和」「食」「文化伝統」など「一隅」にまつわるテーマで選書された約千冊の書籍を大書院・旭光の間にて紹介し、大書院の



静かな空間で心穏やかに本を楽しんでいた。
だいた。

また、大書院の応接の間では、京都造形芸術大学 KYOTOTO5（京都伝統文化

イノベーション研究センター)による伝統工芸とのコラボ作品の展示、一隅を照らす運動の啓発ポスターでもご協力いただいた漫画家おかざき真里氏の『阿・咩』複製原画パネル展も合わせて開催した。

◎伝統工芸ワークショップ

伝統工芸体験を通じて伝統の継承の中にある「一隅を照らす」精神に触れることを目的にした四つのワークショップを期間中に開催。当日はお子様から年配の方まで幅広い層の方に参加いただいた。

- ・京提灯職人と作るミニ京提灯／小嶋商店 (十一月二日)
- ・老舗念珠店による念珠づくり体験／安田



念珠店 (十一月二日)

・日本画家とともに楽しむ写仏体験

／日本画家・諫山実氏 (十一月二、三日)

・仏師が教える梵字彫り

／仏師・宮本我休氏 (十一月三日)



◎比叡山 朝 YOGA



世界遺産・比叡山延暦寺で行うスペシヤルなヨガプログラムとして開催。京都を拠点に活躍するヨガインストラクターAKI氏を講師に迎え、初心者の方でも参加いただけるプログラムとし、リラックスしながら延暦寺でのヨガを楽しんでいただいた。

◎フードマルシェ

地元の食材やオーガニックな素材などを生かしたフードやスイーツを各所で展開。東塔バスセンター横や西塔駐車場ではキッチンカーなどでの販売を実施した。また、延暦寺会館の喫茶れいほうでは、オリジナルのラテアートが楽しめる「一隅を照らすラテ」などを販売し、会館にお立ち寄りの参拝者の方にお飲みいただいた。

◎「一隅を照らすモザイクアート」
一隅を照らす運動発足五十周年を記念して、運動の発信拠点である全国の天台宗寺院の写真を使用したモザイクアートを制作。七百以上の寺院に写真を提供いただき制作したパネルは参拝者にも好評であり、照隅祭の翌日（十一月五日）開催の五十周年記念式典の受付（延暦寺会館）でも展示され、ご来場いただいた寺院関係者の方々にもご覧いただいた。



〈西塔エリア〉

◎京都造形芸術大学アートプロジェクト
「一隅を照らす」 produced by
ママテレサホールディングス

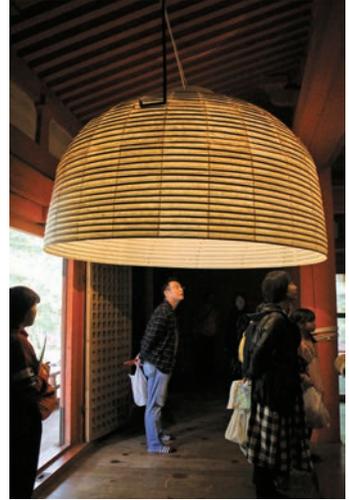
西塔にある常行堂・法華堂（にない堂）では、「一隅を照らす」をテーマにした京都造形芸術大学による学生のプロジェクト作品と京都造形芸術大学の教授で、現代美術作家としても知られるヤノベケンジ氏の作品を展示した。

非公開の国重要指定文化財である堂内には、京都の伝統工芸である京提灯・小嶋商



店の技術と京都造形芸術大学の学生のアイデアのコラボレーションによって生まれた「一隅を照らす」をテーマにした作品が展示された。常行堂には国内のデザインコンペで優勝し、昨年のミラノデザインウィーク（世界的なデザイン見本市）にも出品され、海外で高い評価を得た作品を、法華堂には自身の置かれている場所や立場で最善を尽くす「一隅を照らす」と、茶道の「一期一会」の精神を重ねた作品の展示を行い、普段開かれることのないお堂と合わせて多くの方にご覧いただいた。





また、両堂前には、ヤノベケンジ氏の作品として多くの神社仏閣で守護獣として置かれてきた「狛犬」「獅子」の高さ約3mもの大型アート作品を展示。作品の前に参拝者の多くが足を止めて興味深く解説を読み、記念撮影する姿があった。

◎ 釈迦堂スペシャルライブ

釈迦堂前広場にて高校吹奏楽部とアーティストによるコラボセッションライブを三日間開催した。

初日は甲子園での演奏でも知られている大阪桐蔭高等学校と日本を代表するドラマーである高橋まこと氏、梶原徹也氏によるセッション。総勢百八十名もの吹奏楽部のパワフルなサウンドと二人のドラムテクニクに歓声が沸き起こった。

二日目は延暦寺学園比叡山高等学校と天
台声明によるセッションを開催。この日の



ために作られた吹奏楽の演奏と声明のコラボ楽曲など、多くの参拝者が声明と吹奏楽の調べに聞き入っていた。

最終日は、京都アニメーションの人気作品とのコラボライブとして、

て、アニメ作品のモデルにもなった京都の菟道高等学校と作中の楽曲演奏に関わった洗足学園音楽大学、ヴォーカリストTRU E氏が登場。冒頭では先の事件で被害に遭われた方へ黙祷が捧げられ、ライブがスタートした。人気作品ということもあり、多くのファンがライブ会場につめかけた。

すべてが初めての試みであったが、西塔全体に響き渡る素晴らしいライブを開催することができた。

・(十一月二日) 大阪桐蔭高等学校吹奏楽部 featuring 高橋まこと (ex. BOOWY)・梶原徹也 (ex. THE BLUE HEARTS)

・(十一月三日) 延暦寺学園比叡山高等学



校吹奏楽委員会 featuring 台声明 (天台宗)

・(十一月四日) 京都府立菟道高等学校吹奏楽部 meets 洗足学園音楽大学 フレッシュユマン・ウインド・オーケストラ & TRU E (from 響け! ユーフォニアム)

タイ・スタディーツアーを実施

一隅を照らす運動総本部では、令和元年十一月十四日～十九日の日程で、比叡山高等学校と駒込高等学校の生徒八名を引率し、ドゥアン・プラティープ財団（タイ王国）を訪問するスタディーツアーを実施した。



「生き直しの学校」 チュンポーン校での修了式

このスタディーツアーは昨年度に引き続き四回目。「一隅を照らす」人材を育成す

ることを目的に、アジアの貧困地域の現状に触れ、日本との生活環境の違いや、座学だけでは得ることのできない経験と見聞を広めてもらうために実施している。

十五日は、ドゥアン・プラティープ財団「生き直しの学校」（チュンポーン校）を訪問し、施設の子どもたちから歓迎を受けた。施設には三日間滞在し、日本の高校生とタイの子どもたちが共同作業やスポーツ、また、タイ語の指差し会話本や身振り手振りをを用いて積極的に交流した。最初は緊張気味だったが、次第に環境と子どもたちに打ち解けた様子。他にも、将来の夢や普段の生活について通訳を交えて意見交換し、日本との違いや共通点などに触れた。また、現地の小中学校を訪問し、校内や授業の様子を見学するなど多くの事を学ぶ貴重な機会となった。

十八日には、ドゥアン・プラティープ財団の事務所（バンコク）を表敬訪問した。事務所のあるクロントイ地区のスラム地区に視察し、財団のスタッフからスラム地区が抱える問題等の説明を受け、日本との違いを目的の当たりにした。

一隅を照らす運動総本部では、来年度以降もこのツアーの実施を検討しており、改善点などを十分に精査し、より充実した内容のスタディーツアーとなるよう努めたい。

「チュンポーンでの活動報告と感想」

比叡山高校 二年 植田 唯奈

一日目、日本から五時間でタイバンコクに到着しました。そこからチュンポーンまで飛行機とバスに揺られること、約三時間で到着後、お花で飾られたココナッツジュースで歓迎をうけました。味は今まで飲んだことのない味でした。

ともしびの館に到着し、はじめに小中学校の授業見学に行きました。目についたのはたくさんのトロフィーでした。スポーツで勝ち取った賞だそうです。

先生達の年齢層は若く、生徒達の印象は元気で明るく生き生きとしていました。

夕方からはクラトン制作をしました。

一人一個自分オリジナルのクラトンを作成します。現地の子は自分のクラトンがまだ出来ていないのに、私を手伝ってくれました。みんなとてもやさしいです。

夜クラトンを流しました。川の女神様に感謝の気持ちを捧げるという意味で流します。途中雨が降ってきたら、自分達はびちよびちよになっっているのに、私たちに傘をさしてくれました。どんな時でもいつも相手に優しくしてくれます。

夕食はバイキングでした。タイでは、合掌してから食事をするスタイル。日本の挨拶「いただきます」と「ごちそうさま」

を教えてあげたら、みんな上手に言ってくれてとてもうれしかったです。

食後はスポーツ交流がありました。バトミントンとバレーボールをしました。運動神経の良さを実感しました。

一日目の締めくくりには火をくわえてのフォーマンズや太鼓を披露してくれました。感動しました。

二日目、日本の夏の出は五時くらいだが、タイの朝は七時くらいにようやく明るくなりました。まだ暗い五時半に起床しました。この日は夜のB B Qの食材を買いにマーケットに行きました。日本とは食材の加工も置き方も違っていました。豚の顔の骨が置いてあるのには驚きました。

道路も混雑していて、日本のように車道と歩道の区別はなく乱れていました。

朝食後、アブラヤシ農園に行きました。車の後ろに立って移動するという日本では、考えられない体験をしました。

手入れは現地の子とペアで行いました。私は、三歳年下の子でした。ここでも重いバケツをすすんで運んでくれたりとても優しくかったです。

昼食後は、タイの伝統行事ソククランを体験しました。簡単にいうと、水かけ祭りです。バケツに水を入れてかけあいまし。この行事のおかげで一日目より仲良く

なつた気がします。

夜はB B Qです。火おこしから食材の準備など全て自分達で協力し、とても楽しかったです。

二日目の締めくくりに互いの出し物を披露しました。タイのみんなはダンスを披露してくれました。私達からは、「だるまさんがころんだ」をしました。なんと、タイでも遊んでいるらしく、みんな知っていて親近感がわきました。この日は一日中楽しくて、「帰りたくない」と何回も言っていた気がします。

三日目、最終日です。昨晚から荷物整理をしていたせいとか、お別れの朝から少し悲しくなりました。

朝食後は、ドリアンの苗木を植えました。土を掘るのが固くて困っていたら、それに気づいてくれて手伝ってくれました。いつもどんな時も人にやさしく出来る彼らには感動しました。

次にバックの製作をしました。お花の色素を棒でたたいてしみこませて作りました。昼食後は、意見交換会をしました。「将来の夢は何」という質問にみんなはつきり答えてくれました。小さくても夢がはつきり決まっています堂々と発表出来るのは、すごいと思いました。自分も考えさせられました。

私の質問は、「みんな年齢がバラバラなのにどうしてこんなに仲がよいのか」と聞きました。年上の子が下に指導したり怒ったり褒めたりするから本当の兄弟のようになっている。との事でした。

現地の子たちは、毎日笑顔で楽しそうにみえるけど、「お母さん、お父さんに会いたい」「外に出たい」「日本に行ってみよう」と心では思っていました。私はチェンポーンでの体験で、将来困っている人をどんな形でもいいから助けてあげたいと強く思いました。

四日目、財団訪問とスラム街視察に行きました。スラム街は空気がどんよりしていて、いたるところにゴミが捨ててあったりと、想像以上の環境でした。どれだけ日本が恵まれているか、どれだけ自分が幸せで自由な暮らしをしているのかを思い知らされました。

財団でのお話で、人は生きる場所、親を決められない、だから自分で生き直しをする。と聞きました。生きていくのは自分。どうやって生きていくのか、将来進む道、生きる人生のプランとして小さいうちから人生の目標を立てます。

財団訪問後、幼稚園にも行きました。かわいいダンスで歓迎してくれました。元気な笑顔の子供たちの昼食がスプーン二口く

らしいかには驚きました。

最後に、今回のツアーは全てがよい経験で、実際にチュンポーンで生活してみても、シャワーは水しかでない、トイレには紙は流さない、すごい虫、現地の人は常に裸足など、行ってみないと味わえないことがたくさんありました。日本にいると毎日普通に過ごしている環境も、当たり前のことではなく、私はどれほど幸せな暮らしをしているのかを実感しました。

私は現在、将来進むプランを立てている最中です。自分の一度きりの人生、今回の経験を無駄にすることなく考えたいです。ツアーに参加させて頂いたことをこころより感謝します。

「タイ・スタディーツアー事後学習」

比叻山高校 二年 白澤 芽衣

活動報告

チュンポーンでの活動報告

一日目

現地の幼稚園、小中学校へ行き授業見学しました。

日本と違い児童人権についての授業をしていて日本でも取り入れたらいいののではないがら見学していました。

見学が終わると施設に戻りクラトン（灯籠）制作を施設内の子供たちと一緒にしま

した。

夕食を終え施設の子供たちによるパフォーマンスを見てそのあとにロイクラトン（灯籠流し）をしました。

その時の光景はとても幻想的で今でも鮮明に覚えています。

二日目

夜にするBBQに備えて朝市に行った。朝市に行つてまず思ったことは、あまりにも汚くて衛生面的に大丈夫なのかと思つてしまいました。

でも、市場の人々がみんな笑顔でそんなことがどうでもいいように思うようになりました。

買い物が終わわり施設に戻つてくると朝食を食ベアブラヤシ農園に行き、アブラヤシの手入れ作業をしました。

まず化学肥料を木の周りに撒き、そのあとに施設内で作られた堆肥を撒きました。

一人あたり十〜十五本作業をあの暑さの中しました。

日本組は汗が止まらなかつたのに現地組は元気で地域差が出ているととても感じました。

昼食をはさんでスポーツ交流をしてそのあとに伝統行事のソンクラーン（水かけ祭）を体験しました。

農作業をした後なのでとても気持ちがい

かつたです。

私自身水を使って遊ぶのが大好きで我を忘れて遊んでしまいました。

そして、二日目のメインディッシュBBQではみんな地べたに座りお皿を囲んで食べました。

食事の際少ししゃべっていて自分の好きなジャンル（ハリポッター）の話が出てきた時はとてもうれしかったです。

食後に日本（だるまさんが転んだ）とタイ（ダンスコンテスト）でそれぞれ考えてきた出し物をしてとても盛り上がりつていました。

三日目

朝食後ドリアンの苗木を植えました。

二日目の作業よりかはまだ楽でした。

自分の植えたドリアンがどのように成長するのか今から楽しみです。

植樹を終えると施設内に生えている植物を使ってトートバッグ作りをしました。

施設の子供たちと協力してなかなかいいバッグが出来ると意見交換という名の質問会をしました。

昼食が終わると意見交換という名の質問会をしました。

その時に施設の子に向けた質問で将来の夢は何かというのが出ました。

みんなそれぞれ答え（夢）がありました。それに向かつて日々努力していることを

想像すると一度つらい思いをしているのに、気持ち切り変えて頑張っているというところはとても素晴らしいことだと思いました。そして、閉校式が始まるとみんな泣き出してしまい本当にお別れするのかなと思ってもさみしくなりました。

財団事務所での学習

生き直しの学校はタイの青年たちを麻薬社会から更生するために建てられた財団で最初は何もないところからスタートした。でも今では立派な施設になっていてしかもほぼ支援できており世界中で協賛している人がたくさんいることに驚きました。プラティープさんの幼少期のお話を聞いたときは日本ではありえないことが次々と出てきてその中に【自分の生まれる場所は、選べない】という言葉聞いて日本は本当に恵まれている国だと思ひ素直に日本に生まれてきてよかったと改めて実感しました。

スラム視察の報告

自分自身が最初思っていたスラムは、とにかく汚くてごみが散乱していてカバンの中身もすぐ取られるようなとにかく典型的なことを想像していたのですが、全然違っていて挨拶とかも普通にしますスラム内で住んでいる人同士で喋っていたりしてあんまり普段見ている光景と変わらないと思ひました。(道路の清潔さ、家と家の間

隔を除く)

スラムの幼稚園に訪問すると、園児たちみんな人懐っこくてすぐ寄ってきて一緒に遊びました。

遊んでいるときの園児たちの目は、とても輝いていて日本の園児もタイの園児も結局同じなのだと思ひました。

感想

正直なことを言うと今回のスタディーツアーに自分が選ばれるとは一ミリも思ひていなくて不安だらけで行ったのですが、日本ではありえないことだらけのタイで初日は早く帰りたいと思ひていたのですが、だんだん慣れてきていざ帰国するとなったらさみしく思ひました。

チュンポーンでの一番の思ひ出はやっぱり水かけ祭です。

活動報告でも述べた通りとにかく水遊びが大好きでタイも日本も関係なくみんな遊びしょ濡れになりました。

ここでやっとタイの子供たちとの壁が少しなくなつたのかなと思ひ、この後から喋るようにになりました。

でもチュンポーンで起こつたことがすべていい思ひ出になりました。

バンコクでの思ひ出は観光で訪れた寺院も思ひ出に残るものでしたがそれ以上に幼稚園で園児と遊んだことがやはりいい思ひ

出になつたと自身で思ひます。

理由は十数年ぶりに国は違うけど幼稚園に訪れて園児たちと本能のままに遊び幼かつたあの頃に戻れてたまにはこうゆうのもいいなと思ひました。

私はタイに行っているときに偏食の影響でまともにご飯を食べられなくて帰国後家でご飯を口にしたら涙が自然と出てきて普段何も考えずに食べていたご飯のありがたみを感じ意外なところでこのツアーのありがたみを感じました。

今後に向けての具体的な思ひ・反省

今後に向けての具体的な思ひ

現地の小学校訪問の時にたまたま工場の時間で粘土のようなものを使ってバナナを作っていたりさらに施設内にあつた大きな葉っぱを見て自分の将来の夢である現地のものを使って日本の伝統工芸を伝えることができるなと思ひ将来ぜひタイでも活動したいなと強く思ひました。

その時は偏食を直しておかないと、とも思ひました。

反省

もう少し施設内の子供たちとコミュニケーションをとればよかったなと思ひました。そして少し羽目を外してしまい、現地の方や宗務庁の方にご迷惑をかけてしまいました。

そのことに関しては深くお詫びを申し上げます。

本当に申し訳ございませんでした。

最後になりましたが今回タイスタディーターに携わった全ての方々へ今回この様な素敵なツアーに参加させていただきありがとうございました。

この経験を生かして将来の夢に向かって進みます。

そして夢叶えた暁にはぜひOGとしてまたタイに行きたいです。

「タイスタディーター報告書」

比叻山高校 一年 青木 更紗

① チュンポーンでの活動報告

私はチュンポーンで初めての体験を多く味わった。学校見学で出逢った先生は魅了されるほどの美しい笑顔で子供たちに接していた。子供たちも同様に笑顔だったのでお互いが励まし合い、助け合っているように見えた。幼い頃辛い経験をした現地の子どもたちが学ぶ人権学習見学では、「何を思っただけで授業を受けているのだろう」とこちらまで考えさせられた。彼らは私たちが考える人権とは異なる視点があるのでないだろうか、と私はその時考えた。

灯籠作りではタイの子と会話を交わしたり、バナナの皮を触ったりと初めての経験

が溢れていた。夜空の下で流す灯籠は、自分の心まで浄化された気がした。それと共に花火も上げていただいた。あれほど近くで花火を見たことはなかったので、改めて美しさを感じた。あいにく少し雨が降ったが、すかさず傘を差し出してくれる子供たちの優しさに心惹かれた。

私たちは朝早くから市場に訪れたが、もう既に賑わっていた。地面の上で商品が売られていたり、机の上に直接お肉が置かれていたり、そこには見たことの無い光景があった。

チュンポーンでの最後の晩では、バーベキューパーティーをした。「このまま時間が止まればいいのに」と心の底から思うような、大変楽しい時間を過ごした。みんなの前でダンスを披露するなど今までにない体験が爽快感溢れた。

日本ではすることができないアブラヤシの手入れ作業やドリアンの植木作業も手伝った。猛暑日の中行なう作業は大変で汗が滲んだが、ここでも現地の子が優しくリードし、サポートしてくれたので一生懸命作業することができた。

生き直しの学校は壮大な土地が広がっていて、多くの動物や植物が過ごしている。みんな仲良く、協力して生活している印象を受けた。外国の現地で食事をとるのは初

めてだったが、一食一食が新鮮で美味しく頂くことができた。

最後の意見交換交流会ではみんなの本音を聞いた。ずっと笑顔を決やさなかったタイの子が涙を見せていた。私達との別れの涙だけでなく、過去の辛い経験や、会うことのできない家族のことを思い出したのではないかと思う。そんな姿を見て心になにか刺さるような痛みがし、私に出来ることはないかと考えた。

② 財団事務所での学習、スラム視察の報告

約十万人が住むクロントイという名のバンコクのスラム街は、私の想像を絶する景色であった。見渡す限り異臭を放つゴミで溢れ返っており、日本ではありえない雰囲気だった。この街を見た時、私は大きなショックを覚えた。それと同時にどれだけ私が幸せに暮らしているのか身に染み込んだ。財団事務所では貴重なお話をいただいた。タイには五千ヶ所のスラムがあり、バンコクには二千ヶ所のスラムがあると聞き、あまりにも多くて私は絶望した。タイで起こる十分ほどのスラムの影響でスラム街の家は水浸しになるそうだ。

今年の夏に日本で交流をしたタイの学生からも話をしてもらった。日本のことを沢山褒めていただいた。具体的には、道路にゴミが落ちておらず分別されていたり、時

間厳守ができる人が多かったり、食事の盛り付けが綺麗にされている、などおっしゃった。日本人として、日本の素晴らしい文化を改めて実感することができて嬉しかった。

バンコクにある保育園へも訪れた。子ども達が披露してくれたダンスや歌などの無邪気な姿に元気をもらった。貧困に暮らしている子には見えないほどの可愛らしく、パワフルな笑顔を見せてくれた。

《感想》

今回は、私にとって初めての海外研修であった。多くの不安を抱えて向かったが、現地の子たちの優しさが不安を全て和らげてくれた。そんな姿を見て、私も「この子達を幸せにしたい。」「何かお手伝いしたい。」「と強く思った。

私の思いが伝わったという確信はない、しかし沢山笑顔にすることが出来た。お互い助け合ったり、学び合ったりできる国際交流は改めて素晴らしいものだと実感した。六日間のタイでの経験は私が生きてきた中で今までに一番充実した忘れることのできない思い出になった。

私は特に将来の夢がなかった。しかし、今回の研修を通じて海外で活躍するという夢ができた。これは私が一度諦めかけていた夢であった。今後英語の勉強を特に力を

入れて、たとえ上手くいかないことがあっても次は諦めないという強い決意ができた。チュンポーンで出会った子供たちや先生方、バンコクで出会った全ての人が諦めかけていた夢を思い出させてくれた。伝えきれないほどの感謝でいっぱいである。またどれほど私たちが幸せに裕福に生きているのか、ということも改めて分かった。愛情いっぱい育ててくれる家族、いつもそばにいてくれる友達にも感謝を伝えていこうと思う。

《今後に向けての思い・反省》

私はマザー・テレサのように人種や経済格差に関係なく多くの子どもたちを助ける人になりたい。しかしそれは簡単ではないことを今回の研修で身に染みて感じた。このまま放っておくわけにはいかない。私は現在世界は平等であると思っていた。しかし、日本を出てみるとそうではないと知った。

親が麻薬づけだった為、幼い頃から麻薬を売買させられて、大きな心の傷を抱えている一人の男の子がいた。その子は初めは私が笑顔を見せても近づいてくれなかった。しかし一緒に時間を過ごすと共に、寄り添ってきてくれるようになり、最後の夜には「一緒にご飯を食べよう」と誘ってくれた。私が彼に対して出来たことは些細なことだ

ったのかも知れない。しかし、私たちの力で笑顔にすることが出来た。そこで私は少しの気遣いや勇気で人を変えることができると学んだ。一人一人が少しの優しさをものことで本当の平和はやってくるのではないかと私は感じた。

私は具体的な例として募金活動に参加することを考えた。チュンポーンでの二日間の水シャワーはかなり苦痛な経験だった。暑い地域であったとしても、夜の水シャワーは肌寒い。この点を改善する為に募金に協力するだけでなく、自分から進んで募金活動をしたいと思う。そして貧困問題を抱えている地域が今よりも快適な生活を送れるように少しでも貢献したい。

今回初めて外国の状況を身をもって体験した。想像以上の不便さを知り、このままではいけない、何か行動を起こさなければと、私は思う。

「タイスタディーツアーに関する報告」

比叻山高校 一年 中島 啓

一、活動報告

①チュンポーンでの活動報告

・バーンタップマイ小中学校授業見学
バーンタップマイ学校は、幼稚園から小中学校まで併設された学校でした。授業のスタイルは日本とよく似ているように見受

けられました。驚いたことは、小学校から英語の授業があり、低学年で単語の発音を積極的に練習していたところでした。

他のクラスでは、日本のアニメのキャラクターの教材でタイの人権についての勉強をグループワークで行っていました。タイの国でも日本のアニメが浸透していることを目の当たりにして、アニメのすごさを実感しました。

・クラトン（灯籠）製作と伝統行事のローイクラトン

タイでは、古くからおこなわれている「ローイクラトン」という風習があります。それは、クラトン（灯籠）を川に流す（ロイ）というもので旧暦十二月満月の夜に人々が川岸に集まり、川の女神へ感謝の気持ちを捧げたものだそうです。私たちも、バナナの幹や葉・花などで装飾した灯籠の上にロウソクと花火を差し、川にながしました。

土地柄や風習は違っても、信仰やそれにまつわるお祭りがあるところは、タイも日本も同様に思いました。

・アブラヤシ農園とドリアンの苗木の植樹
アブラヤシ農園では、アブラヤシに牛糞と肥料をまきました。農園は広大で滋賀県では見ることができないような農園でした。そこで、アブラヤシに牛糞と肥料をまいたのですが、牛糞は肥料用にされており匂い

も臭くなく、長時間作業をしてもあまり気にならなかったのも助かりました。

ドリアンの苗木はチュンポーン校の敷地に植樹しました。果物の王様と言われる内には苗木は長さ七十センチメートルくらいあります。長さ七センチメートルくらいに苗木をよく育つように大きな穴をクワで十五分くらいかけて掘りました。とびつきの甘い王様に育ってほしいと願いを込めて植樹しました。

このアブラヤシ栽培とドリアンの栽培は「生き直しの学校チュンポーン校」の主な収入源になっているようでした。私はアブラヤシとドリアンが何故収入源になるのか不思議に思い調べました。

ドリアンは「果物の王様」なのですぐに理解できましたが、アブラヤシはどうしてなのか？それはアブラヤシの果実や胚乳から油脂が採取できるからです。アブラヤシから生産されるパーム油は植物油と言われ、現在世界で最も多く消費されています。パーム油は、生産効率が高く価格面で優位で、幅広い用途に使うことができるようです。日本ではパーム油、パーム核油でマーガリン、ポテトチップスやカップラーメンなどスナック菓子やインスタント麺、またフライドポテトを揚げるのによく使用されています。パッケージには『植物油脂』としか表示されていないので私にはなじみ

がありませんでしたが、とても身近な食品で驚きでした。食品のほかには石鹼や洗剤が使われています。

・意見交流会

チュンポーン校には、家庭内暴力や親の愛情不足、またスラムの厳しい生活環境から麻薬や犯罪に手を染めてしまった親たちによって家庭崩壊した子供たちが、山麓にある豊かな自然に囲まれた農園で勉強や職業訓練を受け、その経験と共同生活を通して、社会に参加できる更生への場所であることを教えられました。

交流を通して彼らに感じたことは、彼らはとても自立していること、何事に対しても自分のことは自分ですという態度でした。また上昇志向があると感じました。言葉がわからない日本人に対しても積極的にコミュニケーションしようとする態度と自発性が、私とは比べようもないくらいに輝いて見えました。

②財団事務所での学習・スラム視察学習

バンコク首都圏でも都市富裕層と中間層と下層民との格差問題が存在しており、高層ビルのすぐそばに貧相な小屋のような家があるなど、その格差は目に見えました。港の近くあるクロントイスラムは電気と水がつながった建物が点々とたてられて回りに下層民が群がるような形で集落化したよ

うで下層民の住居はベニヤ板やトタンの古材で作られており、インフラ整備も遅れているため非常に劣悪な環境となっていました。

財団は、このようなスラムに住む人々に対して教育、健康、社会福祉人材育成、緊急救命の五つの分野で十五のプロジェクトをおこなっています。

二、感想

交流を通して生活の様式の違いも理解することができました。食事の仕方も当たり前のように違いました。食事の時、彼らは一斉に食べだしました。そこで私は彼らに手を合わせながら「頂きます」を子ども達と一緒に言うようにしました。日本の文化も伝えることができて良かったです。

また、ワニの肉が食べられることにも驚きました。豚肉のようで案外イケたのもダブルの驚きでした。ミネラルウォーターの味は少々味が違い、飲みきりサイズのコップ型で売っているのもふだんは見ないものなので少し魅力的に見えるなど、常に目移りするような刺激に囲まれていました。

しかし、なんととっても日本にないものを見ることができたのが一番の刺激でした。初めて見るスラム街、そこに住む人々、そこにいた子供たちとの交流を通して、自分がいかに恵まれた環境に身を置いているの

かがよく分かりました。また、現状に不満を言うのではなく、工夫して行動している子供たちの姿に見習わなければならぬと思うことがたくさんありました。

三、今後に向けての思い・反省

スタディーツアーの経験は私にとって大変有意義で貴重な体験でした。そして、以前から考えていた海外への夢は、ツアー参加以降より一層、色々な国に行ってみたいと考えるようになっていきます。遊ぶだけではなくその土地の文化や風土も感じるような体験をしたいと思います。

「タイボランティア研修報告書」

駒込高校 一年 久保 果花

一、チュンポーンでの活動

十五日〜十七日の正午まで、プラティーブ財団の支援する「生き直しの学校」チュンポーン校でタイの子供たちと一緒に過ごした。到着すると子供たちは笑顔で私達を迎え入れてくれ、ココナッツジュースやジャスミンで作ったブレスレットをプレゼントしてくれた。言語や文化の違いに最初は戸惑ったが、徐々に打ち解けていき、充実した日々を過ごすことが出来た。

○クラトン（灯籠）製作

子供たちに教わりながら、クラトンを作った。バナナの幹の周りにバナナの葉を巻

いて好きなお花を飾り付けた。子供たちは御手本を見せてくれたり一緒に作ったりして優しく教えてくれた。バナナの幹にピンで色々留めたりするのは難しかったが、出来た時は本当に嬉しかった。

○スポーツ交流

バトミントン、サッカー、バレーボール、バスケットボールなどの日本でも人気なスポーツをしていた。私は、日本との共通点を見つけた気がした。サッカーはあまりやったことが無かったが、やってみたくないと伝えると、いいよと笑顔で入れてくれた。わざとボールを取らせてくれたりゴールを決めさせてくれたりと、子供たちの優しさに触れ、楽しい時間を共に過ごした。

○ロイクラトン（灯籠流し）

手作りのクラトンに蠟燭の灯りを灯し、川に流した。願いを込めて皆で流したクラトンは、水の上でキラキラと光りとても綺麗だった。

○市場見学

朝、市場へ行き夜にBBQをするための材料の買い出しをした。路上では様々なスパイスなどが売られていた。魚や肉が売られている所では、魚の鱗を目の前で取っていたり、鳥や豚の臓器や血のような真っ赤な液体が袋に入って売られているのを見て衝撃を受けた。自由時間が少し設けられた

ので、初めての買い物をした。屋台でチュロスや焼き鳥などを買った。どのコインがいくらなのか分からずに戸惑ったが、現地の人たちに教えてもらいながら買うことが出来た。

○油やし農園 手入れ作業

タイの子と二人一組になって、油やしの木に肥料を撒く作業を行った。炎天下の中、肥料の入った重たいバケツを持って木を回る作業は大変だった。こういった油やしによっても収入を得ていると聞いた。私よりも全然小さい子も手伝っていて、凄いなと思った。

○小中学校見学

まだ小学校の幼い子たちが、難しい法律や人権などについて勉強しているという事実に驚かされた。子供たち自ら手を挙げて発言し、積極的に授業に参加する姿にはとても元気を貰った。法律や数学、英語など、それらが出来なかつたりすると詐欺の被害に遭いやすい、というのは文字が読めなく分からないまま、詐欺の書類などにサインをしてしまうことがあるというのを聞いて、改めて勉強の大切さを知った。

○バーベキューと、その準備

下準備から始まる。私は火を起こすの材料を焼くのを手伝った。火を起こすのは難しく全然出来なかつたが、子供たちはほ

んの数分で起こしていた。人数が多かったため、焼く作業もとても大変だったが、最後までやり切ったときは達成感があった。夜のバーベキューが終わった後、タイの子供たちはダンスを披露してくれた。私達は「だるまさんが転んだ」を企画していたのだが、上手く言葉が通じずに、本来のとは異なるルールになってしまったが、子供たちが楽しそうに参加してくれて嬉しかった。

○トートバッグ製作

真っ白のポーチに自分たちでお花を並べて柄をつける作業を行った。こういった物からも収入を得ているという。並べたお花の上からテープを貼り、棒状の物で叩きつけて色を付けるという作業だった。このような発想は今まで無く、小さい子でも出来ると思った。日本でも、環境施設などで活用出来るのではないかと考えた。

○ドリアン苗木植樹

土を掘ってから重たいドリアンの苗木を植えるという作業はとても大変だった。だが、そんな素振りも見せずに淡々と作業を進める子供たちを見て、私も頑張らなきゃと思った。

○意見交流会

一緒に過ごしてきて三日間どうだったか、などを話した。これが終わるとお別れの時

間になってしまったため、そのことを考えると涙が止まらなく上手く言葉には出来なかつたけど、皆とお別れしたくないと話すと、貰い泣きしてしまう子や、笑って励ましてくれる子もいた。皆一人一人夢や希望を持っていて、将来のことを話している時とてもキラキラしていた。本当に良い子たちばかりで、出逢えてよかったと心から思った。

二. 感想 タイボランティアを終えて

「生き直しの学校」チェンボン校やクロントイスラム視察を通して、家族というものを知らない子、スラム街で生活している子たちと出会った。暗いイメージを持つて訪れたタイであったが、それを打破するような子供たちの笑顔、人々の優しさに私は感銘を受けた。その笑顔は色々な支援を受けて今があるのだと思う。貧困、教育、生活環境など、まだまだ支援が必要な彼らに、今私が出来るとは何かを考える。例えばこの活動を通して学んだことをもっと広めていきたい。学校で行われる募金活動でも、ただお金を封筒に入れるだけでは無く、私たちの募金したお金がこういう形で使われるというようなことを皆に知って欲しいと思った。これからは、そういった活動を通して、今回の貴重な経験を無駄にしないように全力を尽くそうと思う。今回こういった研修に参加させて頂いたことは、

これからの私の人生にとって大きな意味があるのではないかと思います。また、自分がどれほど恵まれた環境にいるのかということも改めて感じさせられました。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。ありがとうございました。

「タイ スタディーツアー報告書」

駒込高校 一年 青山 紗雪

一 活動報告

一 チュンポーン

一日目・子供たちはジャスマンの花飾りとヤシの葉のジュースで私たちを出迎えてくれました。ここから私たちの本格的なボランティアが始まりました。はじめに近くの幼稚園、小中学校の視察に行きました。

授業内容は粘土で遊んだり単語を覚えたりしていました。みんな元気でフレンドリーで驚きました。みんな可愛かったです。とくに印象に残っているのが人権の授業です。子供の人権についてグループでまとめていました。日本のキャラクター、ドラえもんやキャプテン翼が使われていました。自分よりも小さい子が人権という難しいことを学んでいて衝撃でした。大人もあまり信用できないため、麻薬の売買など犯罪に関わらないようにするために自分の身を守るために学んでいるそうです。授業内容は社

会背景が影響していることが分かりました。学校から戻った後、タイの伝統文化、灯籠作りを体験しました。バナナの茎で船の土台を作り、バナナの葉を巻いたり折って三角形にしたり、お花を使って飾り付けをしました。子供たちが手伝ってくれたので華やかで素敵な灯籠ができました。そこで自己紹介や話したりしたので仲が深まりました。タイ語で「名前は何か?」*What's your name?*や「何か伝わらず大変でした。私は毎年、紙や発泡スチロールを使って灯籠を作っているの。タイの灯籠はとて新鮮に感じました。外でみんなとスポーツをして遊びました。小学生の男の子と本気でバドミントンをしました。スマッシュを打つても打つても打ち返され私の方がヘロヘロになりました。タイの子供たちは運動神経が良く、なんのスポーツをやってもうまく、体力がすごかったです。スポーツもみんなと仲良くなるきっかけになりました。

ファイヤードダンスを間近で見ました。自分と同じ年ぐらいの子が火を操っていて驚きました。迫力は忘れられません。見終わったら後、灯籠を流しに行きました。子供たちが演奏する太鼓の陽気なリズムと共に池に向かいました。道はろうそくが並び綺麗でした。私は一緒に灯籠を作ったペアと流

しました。「千と千尋の神隠し」に出てくる船のシーンみたいで幻想的でした。施設の人が花火を打ち上げてくれました。日本の打ち上げ花火よりも大きく迫力がすごく火の粉が落ちてくるかと思いました。人生初の水風呂に入りました。日本にいるときは水風呂余裕と思っていました。いざ入るとお湯が恋しくてたまりませんでした。多くのタイ人は朝と夜、一日に二回シャワーを浴びるそうです。タイは暑く汗を多くかくからだそうです。二回シャワーを浴びないと臭いと言われ嫌われるそうです。意外にもタイの人は綺麗好きだということがわかりました。

二日目・鶏の鳴き声で起きました。朝からバーベキューの材料を買うため、近くの市場に行きました。市場は独特なスパイシーな匂いに包まれていました。日本では経験したことない臭いでした。想像どおり市場は不潔で魚は手掴みで、ゴミはポイ捨てという感じでした。でも、すごく安いのにポリウーミーでサービス精神が素晴らしいです。衝撃的だったのが羽がない鶏です。ゴツゴツした足が気持ち悪かったです。タイでは鶏の脚を、スープや唐揚げにして食べるそうです。コラーゲンが豊富だと聞きました。私は食べたくないなと思いました。屋台のご飯をガイドのレックさんに

買ってもらいました。タイの餅米の上におかずを乗せたもので、おにぎりみたいでした。十バーツで日本円だと四十円！お米がもちもちしておかずと相性抜群でした。

ナツメヤシに三ヶ月寝かせた肥料をまいて、終わった後水かけ祭りをしました。みんな意地悪で顔ばかり狙ってきて目をあけられませんでした。その後バーベキューをしました。芝生の上でシートをひいて食べました。仲良くなったドン君に *Thank you* 「私はよく食べます。」といじられました。また、ガイドさんなしでハリポッターの好きなキャラクターの話やジェスチャーで伝え合うことができました。その後、ダンス大会やゲーム大会をしました。タイのひとたちのノリよさを目の当たりにしました。人前なのに恥ずかしくあらず楽しんで踊っていて感心しました。美味しいはロアと覚えめました。アロイが標準語でロイは方言ということがわかりました。

三日目・施設の探検をしました。色々な国の方々が募金をし、子供達の生活を支えていました。農場機械や礼拝堂にお金が使われていました。アメリカやスウェーデンの人が募金されたそうです。助けをと実感しました。また、人のためにお金を使うことが正しいな自分もしたいなと思いました。生まれて初めてフルーツの女王マンゴスチ

ンを食べました。甘くて白くておいしかったです。子供たちの部屋は綺麗で感動しました。掃除も行き届いていました。ものを大切にしていると感じました。スタッフの皆さん、年長組の指導がしっかりしているのが見てわかりました。ドリアンの植樹をしました。ポーチをデコレーションする企画はとても楽しかったです。ペアの子が花をとってきてくれたり、花を置く配置を一緒に考えてくれました。ポーチはチュンポーンでの思い出の象徴です。意見交換では貴重な時間となりました。違う国の人たちの意見や考えに触れる時間は面白かったです。夢の話や聞いたのが興味深く印象に残っています。とんでもなくお別れが寂しかったです。

二 財団での学習・スラム視察の報告書

朝からスラムの視察に行きました。汗臭いとスパイシーが混ざっていて市場と同じ匂いがして臭かったです。家は普通のコンクリートでした。平日だったため人はあまりいませんでした。多くの人が日雇いで近くの港で働いているそうです。家の中ではテレビを見ている人が多かったです。意外にも電気や水道は通っていましたが、下水は整備されていません。大量の電線が束になっていて危ない状態でした。電線や密集しているのが原因でスラムでは火事が多い

です。プラティープ財団は住民の安全のため消防署を作り、消防車を買いました。やはりスラムはどこを見てもごみばかりでした。ごみ袋にまとめられていても回収トラックは来ないのでどんどん溜まっていきます。この地域は国の土地に勝手に住み込んでいるため公共サービスは受けられません。なので、プラティープ財団が代わりに担っています。消防車もその一つです。他にも家を建てたり、読み書きできない人の代わりに住民登録、出生証明書の作成や立ち退き問題について政府と交渉をしています。スラムを見学後お話しを聞きました。スラムを見て財団の活動を具体的に、今のスラム問題を聞け、タイに来て良かったな、意味があつたなと改めて思いました。

二 感想

タイでの日々は学びと驚き、初めての経験の連続でした。暗い過去を持っている子どもを明るく元気に笑顔で生活しているました。自分もしっかり生きようと元気をもらいました。募金のCMなどは子供の暗い顔ばかり流すのでみんな暗い、関わりづらいついて思っていましたが良い意味で逆でした。私たちがよりはるかにフレンドリーで優しい人たちがかりました。みんなと過ごした時間は私の宝物です。スラムでは現実を目の当たりにし衝撃で涙が出てきそうでした。

自分が想像していたよりも正直怖かったです。写真や動画では感じる事ができませんでした。実際に自分の足で踏み入れられてよかったです。

三〇 今後に向けて

タイに滞在している時から今日も自分がができるのか考えています。まず、募金をしようと思います。タイスタディーツアーで色々な方々のお話を聞き募金はボランティアの基礎で色々な応用が効くからです。自分のお小遣いから、自分の周りの人にも募金の大切さをつたえ周りを巻き込められるようがんばります。また、自分の目標を見つけられました。私は大学で世界の貧困問題を研究し、スラムの生活環境を変えたいです。とにかくごみがない街にしたいです。スタディーツアーでスラムのおおまかな問題点がわかりました。大学でしっかりと学び、解決策を考えたいです。人の役に立つボランティアが行える人間になれるように、タイの子供達のように、これからも明るく元気に笑顔で頑張っていきたいと思えます。

「タイスタディーツアー活動報告書」

駒込高校 一年 竹下 奈穂

今回私たちは十一月十四日〜十九日の六日間、タイでのボランティア活動に参加し

てきました。移動を除く五日のうち、三日間をチュンポーンという地域の「生き直しの学校」で過ごし、残り一日間を首都バンコクで過ごしました。以下は今回の活動の報告となります。

一・チュンポーンでの活動

十一月十五日

00・05羽田発のバンコク行きの国際便で約七時間かけてタイへ向かい、そのまま国内線でチュンポーンへと向かいました。空港を出た途端日本とは異なった湿度の低い暑い空気に包まれました。

そのままバスに乗り換え、コンビニを経由してタイの少年たちが暮らす「生き直しの学校」に向かいました。コンビニの品揃えも日本と違い、スパーとしての役割も兼ねているので生活用品が充実していました。

生き直しの学校（以下宿舍とする）に着くと、沢山の男の子たちが歓迎のためにジャスミンなどを使った花のブレスレットを持って待っていてくれました。穏やかで優しいような人たちだなあというのが彼らへの第一印象でした。会ってすぐに声を掛けてくれたのはとても嬉しかったのですが、コミュニケーションの為にどうしてもタイ語で会話することが必要になり、自分の拙い言葉でそれだけのことを伝えられ、またど

れだけのことを感じとれるのかとても不安になりました。

ミンポーン先生からお話を伺った後、私たちは青のユニフォームに着替え近隣にある学校に足を運び、幼稚園から中学校の子供たちがどのような環境で何を学んでいるのかを見せていただきました。

幼稚園生は数字、小学生は工作やタイ語、高学年は人権についてを学んでいました。一見すると日本教育と変わらないように思えますが、日本と比べるとタイの学校の方が人前で話したりするなどのアウトプットの作業が多く、生徒の主体性をより伸ばしているように感じました。おそらくそういった違いは学ぶことの目的の違いから生まれているのではないかと思います。

再び宿舍に戻ると、夜のロイクラトン（灯笼流し）の為にバナナの幹の輪切りや葉、お花を用いてそれぞれ子供達に教わりながら灯笼を作成しました。

そしてスポーツで交流をして、夕食をとった後にファイアーダンスを見せていただきました。

その後、だんだんと辺りが暗くなってきた頃にろうそくを灯した灯笼を流すため水場の方へと向かいました。若干の雨に見舞われたものの、花火を見て灯笼を流したあの光景は忘れられません。

十一月十六日

この日は夜のバーベキューの為に朝の六時から市場へと向かいました。市場では魚介類や肉類、野菜類やスパイスはもちろんの事、衣服やお菓子なども充実していました。ただ日本とは違い、お肉といっても内臓や頭がそのまま吊るしてあったり、それらのお肉や魚を斧で切っていたりとどこを見てもとても新鮮でした。

宿舎へ戻り、子供達と一緒に「生き直しの学校」ができるまでの道のりや現状などについて学んだ後、彼らが生計を立てている手段であるアブラヤシの栽培のお手伝いをしました。炎天下で何十本とあるアブラヤシに肥料を蒔くのはとても大変でしたが、子供達がコツなどを教えてくれて、より仲を深めることができました。

そして少し休憩と昼食を挟んだ後、ソクラーン（水掛祭り）を体験させていただきました。はじめは旧式の儀式に則り年長者の手にお水を掛けていたのですが、後半は現在主流となっている本気の水の掛け合いになり全員気持ちいいほどにびしょ濡れになりました。

ソクラーンを終え替えると、夜に向けて本格的にバーベキューの準備が始まりました。子供達と一緒に火を起こしたり、食材を仕込んだりしていくなかで沢山の言

葉を覚えました。

そして夕暮れより少し早くバーベキューが始まり、みんなでレジャーシートに座って談笑しながら楽しくすごしました。

そして日が落ちた頃、ダンスバトルやお互いに考えてきたゲームを一緒にしてとても盛り上がりました。個人的に嬉しかったこととしては、爆弾ゲームの罰ゲームでお気に入りの日本人の子に粉をつけるとなった時に、粉をつけにきてくれたことが嬉しかったです。

十一月十七日

早いことでチュンポーン滞在最終日。

宿舎の施設見学の後、タイの子とペアを組んでポーチにお花で模様を描きました。それを乾かしている間、お話をしたりスポーツをして残された時間を無駄にしないように精一杯過ごしました。昼食を済ませお別れ会が始まると、たった三日間とは思えないほどの思い出が蘇り、言葉にしきれない感謝と寂しさでおもわず涙がこぼれてしまいました。このときには、最初に抱いた不安が嘘だったかのように本当に仲良くなれていました。せめてこの思い出が消えないように形にしたいと思い、持ってきたメモ帳にメッセージを書いてもらい、写真も撮りました。チュンポーンを離れるバスの中でも目を潤ませつつ、翌日からのバンコ

クでの活動に気持ちを向けその日を終えました。

二. バンコクでの活動

十一月十八日

バンコクに着き最初の活動はスラム視察でした。高架下や大通りから一本入ったところにひしめくように住居が並ぶスラムは、良くも悪くも少し歩くだけで生活感を感じさせられる地域でした。

そしてスラムを通り抜け、プラティープ財団（「生き直しの学校」や「一日一バーツ学校」などの、生活に多少の難を抱えている子供達の為の取り組みを軸としている団体）を訪れました。ここでは、プラティープさんから直接財団創設までの道のりや現在のスラム地域における課題を伺うことができました。また財団と隣接している幼稚園を訪れると、百人を超える園児が可愛らしい笑顔で私たちを迎えてくれました。また幼稚園の子供達が出し物としてダンスを披露してくれました。園児の昼食の配膳を手伝ったのち、子供達と園庭で全力で遊びました。そこで驚いたのですが、プラティープ財団の幼稚園ではネイティブの先生をお招きして英語を教えているそうで、小さい子とも簡単にコミュニケーションをとることができました。

プラティープ財団での活動を終え、私た

ちは世界遺産であるワット・ポーとワット・アルンに行きました。ワット・ポーでは大きな涅槃像が印象的でした。夕方になり、私達はナイトマーケットを訪れました。マーケットと言ってもイメージとしてはアウトレットに近いようなところでした。活動最終日にして、ワニのお肉を食べたり、ドリアンの香りを知ることができたりと、本当に良い経験になりました。

感想と今後への思い

今回わたしは異文化理解という観点から参加を決意しました。そして私が思っていた以上に多くのことを体験し、日本との違いに気づくことができました。短い期間ではありましたが、個人の力ではとても学びきれないようなことを学ぶことができたのでこのような機会を設けてくださったことに感謝したいです。

そして、今後の日本の国際化の為にもしっかりと世界を知るべきだと思ったので、今以上に関心を向けて学び、周りに発信していきたいです。

「タイスタディツアー活動報告及び感想等」

駒込高校 一年 野上瑛太郎

一 活動報告

(一) チュンポーンでの活動報告

期間：十一月十四日(木)～十九日(火)

場所：バンコク、チュンポーン
気候：三十℃近くの日が多く、湿度が多いです。スコールと呼ばれる突然降りだす雨もしばしばありました。

活動内容

十一月十四日

・羽田空港からタイのバンコク空港(約七時間半)

十一月十五日

・国内線でバンコク空港からスラタニ空港へ

・プラテイーブ財団のチュンポーンともしびの館でのオリエンテーション

・バーンタツプマイ小中学校授業見学

・伝統行事クラトン(灯籠)作り

・伝統行事・ロイクラトン灯籠流し

・ファイヤーダンス(施設の子供たちが見せてくれました)

～一日の感想～

僕は、施設の子供たちと会う最初の日であるこの日、とても緊張していました。短い時間で仲良くなれるのか、うまくコミュニケーションをとることはできるのか不安でした。しかし、施設の子供たちはとてもフレンドリーで親切ですぐに打ち解けることが出来ました。特にタイの伝統行事であるクラトン(灯籠)作りでは彼らが率先して作り方を教えてくれました。クラトンは

バナナの木を利用して茎を土台にして葉や花を飾り付けします。それぞれの工夫があり、この行事になれている彼らは面白いアドバイスをくれました。そして、その日の夜に各々が作ったクラトンに火を灯して、願い事をしながら流しました。僕達にとっては初めての経験だったので新鮮で面白かったです。また、近隣の小中学校の授業を見学させてもらいました。僕が特に驚いたのは、タイの学校では中学一年生の頃から子供のための権利や人権、子供を守るための法律などを学んでいました。日本ではあまり重視されることの無い内容ですが、タイでは特殊な家庭環境を持つ子供も多いためこのような授業が多くあるそうです。

十一月十六日

・朝市場の視察

・プラテイーブ財団や行き直しの学校についてミンポーン先生から教えていただく

・アブラヤシの肥料まき

・伝統行事ソクラーン

・バーベキュー

・レクリエーション

～一日の感想～

この日は朝から市場に行きました。市場は日本では見られないようなフルーツや野菜、魚などがありました。また、匂いがとてもキツく鼻を刺すような匂いもしました。

そして、驚くことに切り落とされた豚の頭や臓器などがお店に並べられていました。日本では絶対にありえないと思います。そのあと施設に戻り、生き直しの学校や子供たちについてミンポン先生という方からお話を頂きました。彼女も施設を作る前は子供たちと同じ立場で貧乏でとても苦労したとおっしゃっていました。彼女の話聞いていま、自分たちがどれだけ裕福な環境にいるか、当たり前と思っている環境に感謝しないといけないと改めて思いました。その後、施設の所有するアブラヤシ農園に行きました。このアブラヤシは彼らの収入の一部にもなっているそうです。数十本もある木の周りに肥料をまきました。そして汗をたくさんかいたあとに、伝統行事であるソクラーンをやりました。ソクラーンは目上の人に長寿や健康などを願いながらカップに入った水をかけ、その後、学業成就や幸せなどを願ってもらいながら、かき返していただく行事です。一日目のローイクラトンと同じく願い事をする伝統文化が多かったです。そして、儀式が終わったあとにみんなで水をかけあったり、水風船で遊んだりしました。水遊びをしたのが数年ぶりでも楽しかったです。その夜みんなでバーベキューをした後にレクリエーションをしました。タイの子たちはダンスを

踊ってくれてみんなノリノリでした。その後ダンス対決になりタイの子の代表と日本人からの代表で一緒に踊りました。日本からの出し物では「だるまさんが転んだ」をみんなでやりました。みんな盛り上がりすぎてくれたのでとても嬉しかったです。

十一月十七日

・ドリアンの苗木植樹

・トートバッグ作り

・意見交換会

・バンコクへ

（一日の感想）

今日は施設の子たちと過ごす最後の日でした。この日になると日常的なコミュニケーションも表情やジェスチャーで分かるようになってきて気持ち分かち合えるようになってきました。ドリアンの苗木植樹もアブラヤシと同様に施設の収入になったり食事として使われるそうです。施設の子と二人一組を組んで、一組につきドリアンの苗をひとついただき協力して植えます。みんな穴を掘る作業に慣れていて感心しました。その後トートバッグ作りをしました。トートバッグは施設の庭に生えている花や草をあらかじめ作られているバッグにのせてセロハンテープでとめ、その上からハンマーで叩くことによって花やくさの汁がでて、キレイな模様ができます。ほくのトー

トバッグには一緒に作ってくれた子のサインを入れてもらいました。良い記念の品になりました。そのあとは最後の取組みである、意見交換会でした。ほくたちは、最初にここでの貴重な体験をさせて頂いたことへの感謝と施設の子たちへいくつかの質問をしたり、彼らの夢についての話を聞きました。公務員で高収入をもらえる警察官や修理などをするエンジニア、スポーツ選手など夢は様々でした。僕はこれらの夢を応援すると共に自分も負けないように頑張りたいと思いました。そして、施設とお別れをして、国内線でバンコクへ戻りました。

(二) 財団事務所での学習、スラム視察の報告

十一月十八日

・スラム視察

・プラティープ財団訪問

・ワットアルン観光

（一日の感想）

この日はまず、バンコク市内にあるスラムの視察に行きプラティープ財団を訪問させて頂きました。スラムを生まれて初めて目の当たりにして驚くことがたくさんありました。辺りはゴミだらけだし、とても生臭い匂いがあり、人が住めないような場所に住んでいる人がいました。僕はスラムを歩いている間、絶句だったのですが、スラ

ムに住んでいる人は手を振ってくれたり笑ってくれたりして、思っていた雰囲気と違いました。そのあと訪問したプラティープ財団では、財団を創設したプラティープさんとお会いすることができ、貴重な時間を過ごすことが出来ました。プラティープさんははじめにスラムに住む子供たちに教養をあたえる活動をされていたそうで、スラム街の歴史と財団創設の経緯について教えていただきました。当時だれもスラムの人を助けようと動いてなかった中で自分から率先して動けるプラティープさんをとても尊敬しています。また、教養がないと簡単に詐欺にあってしまったり、社会的に生きていけなくなってしまうそうで、自分たちが今受けている学校の授業や学校に行ける環境の大切さに改めて気付かされました。

十一月十九日

・帰国

二 感想

僕はタイのスタディツアーを通してまず、タイという国について知り、考える機会を頂きました。生き直しの学校では住む家が無かったり親に麻薬を売らされていたりなど、辛い過去を持っているにも関わらず明るく振舞える子がたくさんいました。そして彼らにもそれぞれに夢があり精一杯努力しています。自分たちは十分な環境を与え

られていることに感謝しなければならぬし、彼らに負けられないように生きたいと思いました。

三 今後に向けての具体的な思い、反省

僕はタイスタディツアーで以上のようなたくさんのお話を聞き、学ぶことが出来ました。自分が知っているだけでなく、たくさん他の人に知ってもらい、少しでもタイの貧困地域やスラムに興味を持ってもらえることが僕にできる一番のボランティアだと思わず、一つはSNSなどを通して今回学んだことを広めたいと思います。そして、今回一番強く思った施設にいる子供たちのように、十分な環境がなくて満足な勉強が出来ない人たちが少しでもへるためにはどうすればいいのか？という疑問について今後学びたいと思っています。まだ具体的なことは明示できませんが、今後自分を成長させてくれたタイの人たちに少しでも貢

献できるような活動をしていきたいです。自分たちに貴重な経験を与えてくれたたくさんの方々、本当にありがとうございました。



バーントップマイ小中学校を訪問



灯籠流し



灯籠作り

十一月十五日



ニューライフプロジェクト学習会



アブラヤシ農園での肥料散布

十一月十六日



伝統行事ソクランを体験



市場での食材買い出し

十一月十七日



ドリアン苗木植林



バーベキュー交流会



意見交換会



オリジナルポーチ作り



クロントイスラムを視察



財団事務所での学習会

十一月十八日

第三十四回 全国一斉托鉢

令和元年十二月一日、第三十四回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。今回も多くの方々の協力により令和二年二月五日現在で六十六会場の実施報告があった。

全国での募金総額は八百八十七万九千四百二十八円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあいなどに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に四百八十三万一千五百九十一円が寄託された。

各地の様

(令和二年二月十四日までに各教区より提出された報告書の内容を掲載)

延暦寺一山

令和元年十二月一日、比叡山麓の大津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十四回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住



を托鉢行脚。その後、六班に分かれて坂界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役員と延暦寺一山寺庭婦人が、JR比叡山坂本駅、JR堅田駅、JR大津京駅と京阪坂本比叡山口駅にて街頭募金を実施した。

なお、当日寄せられた浄財はNHK歳末たすけあいとNHK海外たすけあいに寄託された。

滋賀教区本部

十二月十五日、愛犬部智教寺・圓如寺周辺にて総勢四十九名が十班に分かれ戸別托鉢を実施。寒風の中、住職はじめ檀信徒一同、大きな声でお唱えし、多くの浄財をい

職や職員、天台宗務庁の役員、総勢約百名が参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、天台座主森川宏映親下を先頭に「造り道」

ただいた。事前に周知説明していた事もあり、家の前で待っていただいた方もあった。また一緒に手を合わせていただく方も多く、非常にありがたかった。地球救援事務局に十二万二千円を寄託。

京都教区本部

十二月七日、京都市中京区四条河原町周辺にて総勢十七名が街頭托鉢と戸別托鉢を実施。京都教区宗務所を出発し、青蓮院門跡での法楽の後、二班に分かれ「災害救援募金への御協力」の呼びかけで浄財を募った。また別動にて各篤志の元を廻り浄財をいただいた。京都新聞歳末ふれあい募金に十九万一千二百四十九円、地球救援事務局に十九万一千二百四十九円を寄託。

近畿教区本部

十二月六日、御堂筋・道頓堀南周辺にて総勢十二名が街頭托鉢を実施。当日は本年度最低気温を記録する大変寒い日であったため、人通りはまばらで、思ったように浄財を受けることができなかった。托鉢を行ったエリアは、大阪南の繁華街に近い場所に位置し、歩道を通る方々の年齢分布は、大変若い人通りで、その中でティッシュ配りと共に、天台宗の一隅を照らす運動について説明を行った。ほとんどの方は、この



七千四百六十六円を寄託。

運動について知らなかったので、良い広報活動になった。日本赤十字社に五万七千四百六十六円、地球救援事務局にパンニヤメツ子供の家指定寄付として五万

とができた。今年は災害が多かったので何かの役になればと協力をいただいた。地球救援事務局に五万五千元を寄託。

・第二部では十一月七日、弘誓寺檀中地域にて総勢四十八名が戸別托鉢を実施。弘誓寺寺院総代の方々に協力いただき、スムーズに実施することができた。事前に各家への連絡が行き届いていたこともあり、みな協力的であった。



・第三部では十一月一日、龍音寺・観音寺（奥）檀信徒地域の二ヶ所にて総勢四十名が戸別托鉢を実施。両寺院本堂前にて法楽の行った後、各寺院檀家の各家を戸別に訪問した。各家では玄関を開け、静かに聞いている人や一緒に般若心経を唱えられる方もおられた。神崎郡市川町社会福祉協議会に七万二千七百五十円、地球救援事務局に七万二千七百五十円を寄託。

・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前までの間に総勢九名が托鉢行脚を実施。この日は、日曜日で暖かく姫路城観光の人もたくさんおられた。般若



心経を唱えながら一隅を照らす運動のリーフレットとティッシュを配った。多くの方ではないが、天台宗とわかっていただき募金をしてくださる方もおられた。地球救援事務局に七万一千七百四十一円を寄託。

・第一部では十二月二日、如意寺周辺にて総勢二十六名が戸別托鉢を実施。事前に連絡の上、檀信徒世話人先導のもと、四班に別れて托鉢を行った。午前中は雨で托鉢実施が危ぶまれたが、午後からは日も差して気持ちよく行くこ



・第五部では十一月九日、美方郡新温泉町湯村田安養院周辺にて総勢十三名が戸別托鉢を実施。安養院住職が事前に浄財袋を檀信徒に配布し、当日は町内放送もあり、托鉢に訪れてもすぐに迎えていただき、浄財を受けることができた。地球救援事務局に令和元年台風十五号・十九

号風水害支援金として七万五千円を寄託。
 ・第五部では十二月一日、美方郡新温泉町湯・細田・歌長地区にて総勢七名が戸別托鉢を実施。修験者の法螺貝の音と共に戸口にて待つ方々に檀信徒行脚が声をかけ、浄財を受ける姿は十二月一日の湯村の風物となつている。毎年その姿を拝見し、御大師の意を心にさざみ続け協力する人々には頭がさがる思いである。新温泉町社会福祉協議会歳末たすけあいに十万円、地球救援事務局に十万一千九百九十一円を寄託。

・第六部では十一月三十日、濟納寺檀中にて総勢四十名が戸別托鉢を実施。事前に托鉢の実施をチラシで配布していたのでスムーズに廻ることができた。丹波市社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に五万円を寄託。



岡山教区本部

・第四部では十一月二十九日、倉敷市玉島市街にて総勢六十一名が六班に分かれて戸別托鉢を実施。商店を中心し、店・玄関先



で天台宗の歳末たすけあいの托鉢である旨を告げ、般若心経一巻をお勤めし、対応者が出てきた場合にはリーフレット・ティッシュを手渡し、協力をお願いした。毎年このとなので快く協力をくださり手を合わせてお経を最後まで聞いてくださる方もおられますが、募金をしてくださるとすぐに中に入られる方がほとんどです。しかし、お店が忙しいのでやむを得ないと思います。もちろん全く出ない場合も出てこられない場合も数多いです。当地域は昔はシャッター街化が顕著であり、いつまで今のやり方ができるだろうかと思えます。今後やり方を変えることも検討しなくて

山陰教区本部

はならないかもしれません。倉敷市玉島社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に十二万四千九百六十円を寄託。
 ・第五部では部内各寺院より寄せられた三万円を山陽新聞社会福祉事業団に寄託。
 ・第六部では部内各寺院より寄せられた浄財を地球救援事務局に寄託。

・第一部では十二月二日、観照院周辺にて総勢三十三名が戸別托鉢を実施。一軒一軒歩き、お経をあげて祈願する。事前に浄財袋を配っており、檀家の皆様は協力的であった。岩美町社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に八万一千百円を寄託。



・第二部では十二月二日、松江市普門院周辺にて総勢七名が戸別托鉢を実施。多くの人は無関心であった。熱心な方は行列を追いかけて募金してくださった。托鉢

の直前まで雨天で実施を戸惑ったが、時間になるとぴたりと雨が止み、無事に実施できた。参加僧侶の数が少ないので、増えるように努めたい。山陰中央新報に四万二千四百八十七円、地球救援事務局に二万円を寄託。

・三徳山山内寺院では十二月一日、三朝温泉街周辺にて総勢十八名が戸別托鉢を実施。玄関先で般若心経などを唱え、手を合わせて三徳



山の厄よけ札を渡した。三朝町社会福祉協議会に十万九百十三円、地球救援事務局に十一万二千円を寄託。

四国教区本部



十二月二日、道後温泉街周辺にて総勢二十一名が街頭募金を実施。徒歩にて道後温泉本館から道後商店街、道後温泉駅を行脚。駅では交通機関の乗り降りの方も多く、立ち止まって話を聞いてくれる方や募金をしてくれる方も多かつたように思える。地球救援事務局に二万二千六百七十七円を寄託。

九州東教区本部

・第一教部では部内各寺院より寄せられた三万円を地球救援事務局に寄託。
・第二教部では部内各寺院より寄せられた五万円を地球救援事務局に寄託。

・第三教部では十二月一日、豊後高田市内にて総勢六名が街頭募金並びに戸別托鉢を実施。交通



遣児寄付並びに社会福祉協議会にあわせて五万円、地球救援事務局に六万三千六百八十六円を寄託。

・第四教部では十二月一日、大分市トキハデパート前にて総勢十名が街頭募金を実施。今年の日曜日となり平日の通勤者がおらず人通りが少なく感じた。募金の大半は檀信徒からの浄財であった。地球救援事務局に四万七千九百七十四円を寄託。
・第五教部では部内各寺院より寄せられた一万五千円を地球救援事務局に寄託。
・第六教部では部内各寺院より寄せられた一万円を地球救援事務局に寄託。

九州西教区本部

・筑前部では十一月二十六日、宮若市磯光普光寺周辺にて総勢二十名が戸別托鉢を

実施。過疎地域であるので、会場となった普光寺住職や檀信徒らが事前に周辺宅や信徒宅に知らせていただいていたので大変助かった。地球救援事務局に十三万六千八百七十一円を寄託。

・久留米部では十二月九日、久留米市商店街にて総勢四名が戸別托鉢を実施。商店街の店主、通行人に呼びかけ、主旨を伝えて、快く気持ちを提供した。地球救援事務局に五万七千一百円を寄託。



実施。年々シャッターが閉まっているところが増えている。しかし、毎年のもので募金していただく家は恒例行事になっているので早く募金に応じてくれた。本年はしようぐうさんを借用した。毎年募金してくださる方は、いつも無表情だったが、しようぐうさんのお陰で、笑顔で「カワイイネ」等あたたかい言葉をいただいた。また、子どもたちが握手を求めてきたり、反対車線からわざわざ募金してくれたり、車を止めて募金をしてくれることもあり、非常に効果的であった。地球救援事務局に二万二千二百十六円を寄託。

・肥前東部と肥前西部では合同にて十二月三日、佐賀市駅前通りにて総勢十八名が戸別托鉢を実施。当日は曇天で小雨のぱらつく寒い日でしたが、街頭に出たときは雨も上がり、参加者には一軒一軒丁寧に読経いただいた。パンフレットとティッシュを配りながら店頭にて趣旨を説明し、賛同いただいた方々から浄財とねぎらいの言葉をいただいた。今回、しようぐうさんの着ぐるみを借用し一緒に歩いたが、道行く人の反応は概ね良好だった。ただし、子どもがいない時間帯であったので、近寄って触れ合う姿は見られなかった。地球救援事務局に六万四千七百九

十五円を寄託。

・対馬部では十二月十七日、対馬市上対馬町比田勝商店街にて総勢十七名が街頭募金並びに戸別托鉢を実施。本年度は、教区の方針でしようぐうさんの着ぐるみを活用した。同じ場所での実施三年目なので、年末の恒例行事として快く協力いただいた。対馬市社会福祉協議会に一万円、地球救援事務局に五万三百三十円を寄託。

三岐教区本部



十一月三十日、三重二部観音寺周辺にて総勢十一名が五班に分かれて戸別托鉢を実施。あらかじめ托鉢を行うことを檀徒に知らせておき、百二十軒を訪問した。地球救援事務局に十三万五百円を寄託。

東海教区本部

十二月一日〜三日、知多市八幡地区周辺にて総勢二十名が四班に別れて戸別托鉢を実施。三日間、八幡地区にて住職、檀信徒、地域ボランティアが参加、今回で三十七回目を迎えた。寒風の中、伝教大師讃仰和讃を詠唱しながら行い、多くの浄財が寄せられた。知多市社会福祉協議会に十万円、愛知県共同募金会に四万四千七百八円、地球救援事務局に五万円を寄託。

十二月二十一日、覚王山日泰寺にて総勢八名が募金活動を実施。托鉢実施日は、覚王山日泰寺の御縁日で多くの参拝者が集まっております。

「天台宗東

海教区一隅を照らす運動、地球救援の募金をお願いします」と呼びかけ、参拝の人々に伝えつつ、参拝者の健康を祈念して行った。中日新聞に五万円、天台宗仏



教青年連盟に七万九千六百三十九円、地球救援事務局に五万円を寄託。

北陸教区本部

十一月十六日、金沢市金石西道入寺周辺にて総勢十九名が戸別托鉢を実施。当日の朝、冷たい雨が降っており、次第に雨足も弱まってきた。導入寺住職の案内で、近隣檀信徒宅を二十件ほど訪れた。



浄財のあるなしにかかわらず、パンフレットとティッシュを渡し、読経をして皆の幸福を祈った。地球救援事務局に令和元年台風十五号・十九号風水害支援金として十六万七千二百円を寄託。

神奈川教区本部

十二月三日、川崎市J R川崎駅東口銀柳街周辺にて総勢四十名が一組七〜八名の六組に分かれ、幟旗を掲示し、チラシ、ティッシュを配布しつつ、天台宗として全国一

斉托鉢を行っている旨を伝え、募金への協力を呼びかけた。通行の方々に多くの浄財をいただき、また教区内寺院からもそれぞれ集めた募金を持参いただいた。



川崎市民、平塚市民の方々から好意的に募金をいただいた。教区仏教青年会救援募金に十万円、地球救援事務局に十五万五千四百四十八円を寄託。

東京教区本部

東京教区本部では十二月十四日、聖観音宗浅草寺宝蔵門前にて総勢三十九名が街頭托鉢を実施。当日は晴天で寒くなかったこともあり、非常に多くの参詣者がいた。宝蔵門の前に一隅を照らす運動の横断幕を張り、のぼりを立てて托鉢の趣旨を掲げると共に、口頭で協力をお願いした。しようぐうさんを登場させると参詣者の注目が一気に高まった。あしなが育英会に十万円、港区社会福祉協議会に四

万三千三百六十八円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・東京教区仏教青年会では十一月二十八日、第六部瀧泉寺目黒不動境内にて総勢十名が募金活動を実施。小雨が降っていたので屋根の軒先に並んで立ち、募金の呼びかけをした。縁日のご祈祷があったので、参拝の方は比較的多く、参拝の往来に足を止め、多くの方が募金をしていただけ。地球救援事務局に十三万三千八百八十四万円を寄託。

北総教区本部

十二月一日、成田国際文化会館にて総勢四十八名が教区の一隅大会にあわせて募金活動を実施。地球救援事務局に六万二千二百九十九円を寄託。

南総教区本部

十二月二日、千葉県茂原駅南口周辺にて総勢六名が街頭募金を実施。募金を行った茂原市は、台風十五号、十九号、豪雨災害と立て続けに災害が起こり、今もな



お一部では復旧作業が続く中での托鉢であった。タイ・プラティープ財団に四万円、地球救援事務局に五万二千八百四十五円を寄託。

埼玉教区本部



十二月一日、川越駅周辺並びに第二部喜多院境内にて総勢二十八名が街頭募金を実施。天候にも恵まれ、多くの方からご賛同、ご協力をいただいた。宗内の門徒はもちろんのこと、他宗、他教の方々も多くの協力と温かい言葉をかけてくださる方もおり、大変励みになった。天台仏教青年連盟に八万二千六百八十八円、地球救援事務局に十万円を寄託。

群馬教区本部

・南前橋部では十二月七日、圓福寺・光琳寺周辺にて総勢百十四名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に十一万九千七百四十

円、地球救援事務局に三十五万円を寄託。
・北前橋部では十二月六日、前橋市玉藏院周辺にて総勢十五名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に六万二千八百九十五円、群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万二千元を寄託。



・西前橋部では十二月一日、昌樂寺周辺等にて総勢三十八名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に十万三千十三円、元総社地区社協に三万円、仏教保護会に七万円、群馬教区本部に十万円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・高崎部では十二月八日、高崎駅前、高崎市街地にて総勢五名が街頭托鉢と戸別托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・富岡部では十二月七日に富岡駅前、十四日に一ノ宮・甘楽町内にて総勢十六名が戸別托鉢を実施。社会福祉協議会に二十万二千八百八十八円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託

・多野部では十一月四日、多野部金光寺で行われた研修会にて募金を実施し、総勢七十八名から浄財を募った。群馬教区本部に二万円、地球救済事務局に一万四千元を寄託。

・北群馬部では十二月七日、渋川市内にて総勢六十六名が街頭托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、渋川市社会福祉協議会に十万円、群馬教区本部に七万七千九百一円、地球救済事務局に五万円を寄託。



・沼田部では十二月九日、部会にて住職十四名から浄財を募った。群馬教区本部に三万円、地球救済事務局に二万円を寄託。
 ・桐生部では十二月一日、桐生市本町周辺にて総勢九名が街頭募金を実施。群馬教区本部に六万円、地球救済事務局に四万円を寄託。
 ・東前橋部では十一月二十二日、部内各寺院にて総勢九名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に七万円、地球救済事務局に五

万円を寄託。

・伊勢崎部では十二月二十六日、部会にて部内住職から浄財を募った。群馬教区本部に十七万円、地球救済事務局に十七万九千三百円を寄託。

・世良田部では十一月五日、部会にて部内住職から浄財を募った。群馬教区本部に二万円、地球救済事務局に一万円を寄託。
 ・下仁田部では十二月一日、下仁田町、南牧村内にて総勢十一名が戸別托鉢を実施。下仁田町社会福祉協議会に八万二千九百十四円、南牧村社会福祉協議会に五万八千九百五十三円、仏教保護会に二万円、群馬教区本部に一万円、地球救済事務局に一万円を寄託。

茨城教区本部

・茨城教区本部では十二月七日、第二部千光寺周辺にて総勢十三名が戸別托鉢を実施。教区浄財積立に五万円、地球救済事務局に七万四千八百九円を寄託。

・第二部では十二月七日、下館駅北口広場、駅北口目抜通り、北口・南口商店街、かすみストアー入口にて総勢七名が街頭募金並びに戸別托鉢を実施。本年度托鉢も茨城教区托鉢と重なった。天台宗では観音寺、極樂寺、等覺寺、最勝寺住職四名と他宗僧侶三名での寒行であった。当日

は気温五度以下曇りの厳しい寒さの中、通りを往来する人影、駅を乗降する客の姿は極めて少ない状況であった。スーパーマーケットは例年通りの賑わいの中、しようぐうさんの着ぐるみの効果は大きく、多数の親子よりご寄付をいただいた。筑西市共同募金委員会に十二万三千三百六円を寄託。

栃木教区本部

十二月一日、JR宇都宮駅西口ロータリー内にて総勢二十七名が街頭募金を実施。二〇一五年に続き、県内では台風により大きな被害を受けたため、被災地支援をあわせて呼びかける形で募金活動を行った。人々の関心は、歳末たすけあいの募金よりも年々増加する大きな災害に対して支援を行うことに、特に関心を寄せているようであった。また、例年そのような傾向が見られるが、教育の一環として敢えて子どもに募金箱に入れさせる光景も多く見受けられ、近年の被災者支援活動への関心の高さとともに、社会貢献活動をどのように行うことができるのか、という意識的な高まりを感じる機会となった。地球救済事務局に四万二千七百九十七円を寄託。

福島教区本部

十二月一日、

会津若松駅前にて総勢二十名が街頭募金を実施。人の動きが少ない時間帯であったのか歩いている人とすれ違うことが少なく募金金額も少なかった。車での往来の人の視線は多かったので一隅を照らす運動のアピールはできたと思う。会津若松市社会福祉協議会に三万円、地球救援事務局に二万五千五百二十七円を寄託。



陸奥教区本部

十一月三十日、

平泉町中尊寺周辺にて総勢三十四名が七班に分かれて街頭募金並びに戸別托鉢を実施。戸別托鉢にあたっては、中尊寺檀徒総代、世話人の協力



により、訪問先導を担っていただきスムーズに実施できた。事前に檀信徒宅に通知をしていたこともあり、浄財袋に志納金を準備して、玄関口にて僧侶の持つ頭陀袋に喜捨いただいた。中尊寺境内では参拝客の方々から浄財をいただいた。地球救援事務局に令和元年台風十五号・十九号風水害支援金として十万五千六百十八円を寄託。

山形教区本部

十一月二十五

日、天童温泉街、天童商店街周辺にて総勢四十八名が街頭募金並びに戸別托鉢を実施。寒風の中、托鉢行脚をし、多くの方から浄財を受けた。募金者と互いに温かい言葉を掛け合いながら進む道行きは心が温かくなるものでした。山新愛の事業団に四万八千九百三十円、地球救援事務局に十万円を寄託。



令和元年度支部活動事業認定支部

一隅を照らす運動総本部では、平成十九年度より宗祖大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」の精神で社会奉仕活動を実践する支部を奨励し、助成を行っております。令和元年度の認定支部は次のとおり二十四支部。(申請時の内容を掲載①事業名②活動年数③開催場所④概要)

滋賀教区本部

教林坊支部(廣部光信支部長)

①教林坊香道の会 ②十二年 ③滋賀県近江八幡市安土町 ④年二回寺院復興に合わせ京都の香道の先生とご縁から生まれた活動であり、信徒に限らず多数の方に参加いただける行事として、市指定文化財でもある書院並びに名勝庭園にて開催している。香道を入口に、仏様へ御供養されていた香



りを楽しみつつ、仏教的な話、日本古来の
伝統文化、室礼、季節感等、統合的に学ん
でいる。

兵庫教区本部

長光寺支部（雲井明善支部長）

①地域高齢者援助友愛活動 ②二十八年
③兵庫県明石市大久保町 ④毎月一回（ふ
れあいサロン）おしゃべりを楽しむ会。花
見の会、敬老会、友愛訪問、要請があれば
生活支援を実施している。地区社会福祉協
議会にも参加している。

和田寺支部（武内泰照支部長）

①地藏盆まつり ②四十二年 ③兵庫県篠
山市今田町 ④
しょうぐうさん
と共に参加者一
同でのおつとめ
からはじまり、
精霊まつり、デ
カンシヨ節、そ
の後地域の方の
パフォーマンス
等を観覧、出演
者を募って子ど



もたちが出演するむかしばなし音楽劇の上
演等を行っている。

極楽寺支部（大塚貫徹支部長）

①オオデマリ植樹 ②新規企画事業 ③兵
庫県多可郡多可町 ④地域を花があふれる
美しい町にしようと三年前より挿し木を増
やしていった。境内にもとからあった一本
のオオデマリを十年ほど前に増やし、現在
五十〜六十本程の林になっている。毎年ゴ
ールデンウィークには大輪の花を咲かせる。
オオデマリを地域の役に立てたい、地域を
美しくしたいという願いのもと、境内と近
隣の公園に植樹を実施。今後も世話を続け
ていく。

常行院支部（岡山亮徹支部長）

①山下城跡周辺保存会 ②九年 ③兵庫県
加西市山下町 ④城山の保全整理、環境整
備や植栽、竹林の伐採・整理、景観の確保
等を行っている。八月末には幼稚園・小学
生を対象にした、おとまり会を中学生を指
導者として招き実施。坐禅や灯ろうの制作、
花火大会、こども発心会を行っている。

彌勒寺支部（草別善哉支部長）

①ほていまつり
②二十四年 ③
兵庫県姫路市夢
前町 ④本堂及
び本尊、寺宝展、
書院庭園の公開、
フリーマーケット、
福餅撒き、
ピング大会、バ
スツアー、じゃ
んけん大会、無
病息災・福徳円満の「かぼちゃ粥」の提供、
授産施設の販売コーナーも実施している。



白毫寺支部（荒樋勝善支部長）

①自然環境保全及びまちづくり交流事業
②三十年 ③兵庫県丹波市市島町 ④寺院
及び周辺に花木等を育て環境保全に資する
とともに、イベント等を通じて交流事業を
行い地域の発展に貢献。一隅を照らす運動
の啓発推進と地球救援募金活動を目的とし
ている。「白毫寺九尺ふじまつり」の実施
や「もみじめぐり事業」への協賛などを実
施している。

岡山教区本部

善福寺支部（森定慈佑支部長）

①阿弥陀講 ②新規企画事業 ③岡山県津山市 ④毎月一日に寺檀交流や仏教体験、仏教への学びを深めるための場として開始。座禅や読経、フィールドワーク等の実践並びに座学での勉強をバランス良く取り入れ、教観双美の場になればと考えている。

長安寺支部（森定慈誠支部長）

①寺活Project お寺で婚活 ②新規企画事業 ③岡山県 ④お寺を会場に様々な催しを開き、仏教とお寺を通して交流し、縁を結び、人も地域も活性化させるのを目的に昨年より開催。お寺を舞台に良縁を結んでいたこうと活動している。

九州東教区本部

眞光寺支部（糸永崇幸支部長）

①公開文化講座 ②十四年 ③大分県大分市 ④檀信徒の中でいろんな場所や場面で活動している人・団体を知らせる場を提供し、講演や講演を通じて、その輪が広がる事を目的としている。講演を通じて、一隅を照らす心を育てて行けたらと思っている。

パンとお茶の接待に加え、障害者施設の販売会等も実施している。



三岐教区本部

寶光院支部（鈴木孝慈支部長）

①杭瀬川並びに野口町内清掃 ②五十年以上 ③岐阜県大垣市 ④年一回、檀信徒に声をかけ、寺院のまわりや周辺を流れる杭瀬川を清掃している。特に杭瀬川の中に不法投棄された大型のゴミや缶、ビンなどの不燃物なども非常に多く、処理にも大変な手間をかけており、檀信徒の皆さまにも苦慮しながら、参加いただいている。

東海教区本部

高田寺支部（柴田真成支部長）

①令和元年度奉納本尊薬師如来わんぱく子

供相撲大会 ②三十九年 ③愛知県北名古屋市 ④本尊薬師如来様のご縁日の行事として、子どもたちの健康と厄除けを祈願するため、毎年十一月第二日曜に開催している。年中から小学六年生までの男女多くの参加があり大いに盛り上がっている。現在では檀信徒のみでなく地域住民も参加する行事となっており、地域社会に根付いている。

根福寺支部（林敬順支部長）

①老人ホーム慰問 ②複数年 ③愛知県稲沢市平和町 ④毎年敬老の日頃、地域の老人ホーム慰問を実施。小学二年生～中学三年生までのボーイスカウトたちが歌や手品、手遊び等を一緒の時間を過ごす。事前集会にてプレゼントする折り紙や花、メダルを作成している。

瀧山寺支部（山田亮盛支部長）

①瀧山寺フェスティバル～滝のお山に鳴り響く太鼓の響き～ ②新規企画事業 ③愛知県岡崎市滝町 ④本堂前にて男子の立身出世を願う行事として、子どもたちを中心とした太鼓グループに呼びかけ参加してもらい開催。個々のチームが太鼓の演奏を披

露し、日頃の成果を発表している。お互いの発表を鑑賞し、普段行われない合同演奏（チーム混合）にて、参加者同士の交流・技術の向上を図る。休憩時間の際は本堂内陣にて祈祷を行っている。

信越教区本部

正教院不動教会支部（山崎晃圓支部長）

①池ヶ原老松会 ②三十五年 ③新潟県小千谷市 ④池ヶ原神社の冬囲い外しや境内・参道の清掃、池ヶ原公会堂の広場の雑草駆除のために除草剤の散布、また町内会主催の祭に参加協力等を行っている。

神奈川教区本部

東圓寺支部

（鷹野慈誠支部長）

①世界文化遺産 忍野八海及び新名庄川清掃活動 ②二十年 ③山梨県南都留郡忍野町 ④富士山世界文化遺産の構成遺産として 忍野八海が加え



られ、この世界の宝を後世に伝えるべく、清掃活動を行っている。東圓寺一隅会の役員を中心に活動をしている

南総教区本部

萬福寺支部（奈良信教支部長）

①高齢者サロン活動（サロンいこい） ②十三年 ③千葉県鴨川市 ④高齢化社会の中、高齢期になっても元気に過ごせるようお寺としてなにか出来ないかといった考えのもと「忘己利他」の精神を根底に開催。高齢者の技能向上、健康作りの意識化、社会参加、地域交流の四点を崩すことなく生きる意味への志向醸成に多面的角度から取り組んでいる。

群馬教区本部

萬福寺支部（守山俊尚支部長）

①寺遊会 ②六年 ③群馬県前橋市女屋町 ④毎月第三水曜日に行われており、参加者一同毎回楽しみに集まっている。明るくほがらかな方が多いため、和気藹々、和やかな雰囲気になりあふれている。活動内容は手芸を中心にお茶や食事をしながらおしゃべり、ゲームやクイズに興じている。年に一回いずみ幼稚園の園児との交流会を実施。

禪養寺支部（小出祥弘支部長）

①寺献会 ②十三年 ③群馬県前橋市山王町 ④子どもたちの安全、安心を願う学区内の清掃、寺院行事への青少年の参加促進、環境整備・保全活動、一隅を照らす運動の周知をはかり地球救援募金への協力促進に取り組んでいる。これらの事業を通して青少年の健全育成と学寺交流を指標に、地域社会の一端を担えるよう、一乗思想の実践化と生活化に努めていく。

正法院支部（藤井祐心支部長）

①正法院杯 ②五十年 ③群馬県前橋市富田町 ④境内・神社・公民館などの清掃活動、小中学生・保護者を中心に座禅会、正法院杯（ゲートボール・スマイルポウリングの大会）等を開催している。

善應寺支部（小川晃龍支部長）

①守澄法親王講（宮様講） ②新規企画事業 ③群馬県伊勢崎市 ④令和元年、法親王の三百四十回御遠忌にあたり、法親王御影の開帳法要を挙行。五年ごとの御遠忌に合わせ、継続的に実施予定。目的として、守澄法親王当山開基の感恩に報い、当山と

由緒を具体的な信仰の営みとして可視化し、後世へ継承、檀信徒に本事業を固有のシンボルと認知してもらい、菩提寺への興味・関心・愛着を喚起し、護寺意識の醸成を図る。当日は法要、日本舞踊、箏曲演奏を実施。

茨城教区本部

來迎院支部（深谷尚永支部長）

①御詠歌・読誦会・仏教文化・火防祭・研修会・奉仕作業 ②十五年 ③茨城県電ケ崎市 ④御詠歌、読誦会、仏教文化、火防祭、研修会、奉仕作業等の事業を講員一同喜んで活動している。終了後は車座になり、法話や近況報告、研修会を行っている。

福島教区本部

観音寺支部（矢島義浩支部長）

①高松山祈りのコンサート ②九年 ③福島県本宮市 ④二〇一一年三月東日本大震災にて皆が不安の中、福島のため何か出来ることはないかと考え祈りのコンサートが開催。最初は元気の発信が目的であったが、心理状況の変化に伴い、現在は地域の方々や家族、友人が集い、絆を深める場の提供をコンセプトに活動。内容として、写仏や

アクセサリー作り体験、コンサート、地元商店の出店やバザー、慰霊法要、鎮魂の願いを込めた花火を実施。

安楽律法流本部

宗休寺支部（佐藤舜海支部長）



①関善光寺ふれあいプロジェクト ②九年 ③岐阜県関市西日吉町 ④寺院を地域社会の新しい「対話」と「交流」の場とする様々な事業を展開し、寺院を核に新しい地域コミュニティを作ることを目的に活動している。内容として林間学校、写生大会、餅つき大会を実施している。

一隅を照らす運動推進大会

○京都大会

京都教区本部（若林節哉教区本部長）では、令和元年十月十八日に京都市の眞正極楽寺を会場に宗祖降誕会一隅大会を開催し、百四十五名の参加者が集まった。午前中には宗祖降誕会慶讃法要並びに写経会がなされた。

はじめに若林教区本部長より開会の辞がなされ、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より挨拶がなされた。

次に京獅子舞プロジェクトによる「三味線と獅子舞」が披露



された。

最後に妙法院門跡門主杉谷義純師による「丁寧な人生を歩もう！」と題した講演が行われた。杉谷師は「今は人・機械まかせに生きており、丁寧に生きてるとは言えない。五感を大事にして本質を見極めながら丁寧に生きていくことが大事である」と話され大会は終了した。

○玄清法流

玄清法流（梶谷隆幸玄清法流統管）では、令和元年十月二十日に福岡市の玄清法流本寺成就院を会場に令和元年度一隅を照らす運動発足五十周年記念玄清法流一隅大会・研修会を開催し、百名の参加者が集まった。

はじめに、梶谷玄清法流統管を導師に法要が執り行われた。続いての式典では、梶谷法流本部長から主催者挨拶、甘井亮淳天台宗参務財務部長、水尾寂芳延暦寺副執行から来賓として挨拶があった。

次に、筑前琵琶福岡旭会会長米村旭翔氏に



よる筑前琵琶演奏、武本バンド

によるジャズ演奏が披露、休憩を挟み善光寺大勧進副住職の栢木寛照師が「仏教と芸能」と題し、講演を行った。

最後に、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より挨拶があり、大会は終了となった。

○東海教区

令和元年十月二十日、東海教区本部（柴田真成教区本部長）では、静岡県島田市の智満寺を会場に東海教区第八部一隅を照らす檀信徒会を開催し、七十二名の参加者が集まった。

午前の部は柴田真成教区本部長、安藤誠亮教区副所長から挨拶があった。



次に、天台宗布教師養成所所長秦順照師による「心の持ち方」と題した法話がなされた。秦師は、私たちの生活上の動作や習慣はちよつとした考え方や捉え方により良くも悪くもなる。心の持ち様で前向きになれると話された。

午後の部は各寺院の檀信徒代表から各寺院の近況や一隅を照らす運動の取り組みの報告があった。意見交換では核家族化により無住の実家に仏壇のみ残されてしまうという例も紹介された。

○茨城大会

茨城教区本部（中村純亮教区本部長）では、令和元年十一月十九日に茨城県東茨城郡の大洗文化センターを会場に天台宗一隅を照らす運動五十周年第二十一回一隅を照らす運動推進茨城大会を開催し、六百三名の参加者が集まった。

はじめに新井量栄教区議会議長より開会の辞がなされ、教区寺庭婦人による和讃、天台宗宗歌、各都代表出



仕による法楽、和讃奉納がなされた。

次に中村教区本部長より挨拶があり、杜多雄天台宗事務総長、小堀光實比叡山延暦寺執行、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より祝辞がなされた。続いて表彰が行われた後、ながと夢保育園児による「しゅうぐうさん体操」が披露された。

休憩後、元力士であり現在歌手として活躍されている大至氏を講師に迎えて「辛抱十年甚句の心」と題して講演が行われた。

大至氏は先ず前歌である甚句を披露され講演を始められ、自信の生い立ちから、相撲を始めのきつかけや、新弟子時代の厳しい修行生活、病氣等に悩まされてこられたことなどを、迫力のある甚句を交えながら語られ、相撲・相撲甚句を通して、日本の伝統文化を世に伝えていきたいという思いを述べられた。また、相撲は本来神事であり、仏教につながることも伝えられ盛会のうちに終了した。



○北総大会

北総教区本部（弘海高顯教区本部長）では、令和元年十二月一日に千葉県成田市の成田国際文化会館を会場に天台宗一隅を照らす運動発足五十周年記念北総教区本部推進大会を開催し、六百十名の参加者が集まった。

はじめに弘海教区本部長より主催者挨拶がなされ、天台宗事務総長代理として浅野玄航法人部長、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より祝辞が述べられた。次に弘海教区本部長より森定一隅を照らす運動総本部長に地球救援協力金が贈呈された。続いて、一島正真教区顧問より大会説明とともに、一隅を照らす運動の歴史や伝教大師の成句を用いて天台宗の教えをわかりやすく参加者に伝えられた。

休憩後、教育評論家である尾木直樹氏を講師に迎えて「宝となれる人づくりこれからの教育・子育てとは」と題して講演が行われた。会場は大きな笑いに包まれなが



らも、これから教育について真剣にメモをとる姿が多く見られた。

また、教育をテーマにした講演だったため、子どもを連れてくる参加者が多く見られたが、

大会中は臨時預かり所が設けられており、参加者は安心した様子で講演を聞いていた。臨時預かり所においても劇団「風の子」による「小さい劇場〜まるさんかくしかく〜」と題した記念講演が行われた。



一隅を照らす運動ニュース

◎比叡山中学校が募金を寄託

令和元年十月二十八日、比叡山中学校ボランティア委員会の代表が来庁し、地球救援協力金として一万二千九百十円を森定慈仁一隅を照らす運動総本部長に寄託した。



同校の文化祭でボランティア委員会はバザーを開催し、その収益を例年総本部へ寄託している。バザーでは、同校の生徒が持ち寄った品物を販売している。同校のボランティア委員会はその他にも、募金活動や福祉施設への雑巾の贈呈、坂本周辺の清掃活動など様々な活動に取り組んでいる。

◎寺院婦人連合会が義援金を寄託

令和元年十一月二十八日、天台宗災害対策本部が行っている「令和元年台風十五・十九号風水害」支援の呼びかけに応じて、天台宗寺院婦人連合会を代表して小林好野

会長から杜多道雄災害対策本部長へ義援金五十万円が手渡された。

その他にも、天台宗寺院をはじめ多くの方々から義援金をお預かりさせていただきました。

重ねて御礼申し上げます。なお、寄せられた義援金は災害対策本部で配分を決定し、しかるべき関係機関に寄託いたします。



◎比叡山高校宗内生が托鉢浄財を寄託

令和元年十二月十三日、比叡山高校の宗内生四名、草別善應さん（二年）、今出川恭弊さん（二年）、梅山慶さん（二年）、善村一良さん（二年）と宗内生が寮生活を送



る山家寮長が来庁し、令和元年十二月八日に行われた「寒行托鉢」で集まった浄財七万二千九百円を地球救援募金として、総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、黒素絹に手甲、脚絆、網代笠姿に装束を整え、法螺貝を吹きながら家々を行脚した。

◎NHKに浄財を寄託

令和元年十二月十六日、総本部は「NHK歳末たすけあい」と「NHK海外たすけあい」へ義援金を寄託した。

NHK大津放送局から北村幸弘局長に来庁いただき、杜多道雄一隅を照らす運動理事長、小堀光實同運動副理事長から目録が手渡された。

歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山山麓坂本地区で行われた「天台宗全国一斉托鉢」戸別托鉢にて寄せられた浄財四十九万六千五百六十三円。



海外たすけあいには、地球救援事務局から五十万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式には比叡山幼稚園から代表して園児四名と保護者四名も出席し、秋に行われたバザーの収益金が園児たちから北村局長に手渡された。

「歳末たすけあい」「海外たすけあい」は国内外の支援の必要な方々のために役立てられる。

◎三千院門跡が浄財を寄託

令和二年一月

九日、三千院門跡の穴穂行仁執事長、宇田泰観総務部長が天台宗務庁に来庁し、一隅を照らす運動総本部へ六十一万一千四百四十八円の浄財が寄託された。



この浄財は、京都市左京区大原の三千院一帯で、令和元年十二月二十三日に実施された、歳末の恒例行事である「托鉢寒行」で集まったもので、地球救援事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎叡山学院が托鉢浄財を寄託

令和二年一月二

十九日、叡山学院生三名（室生幸樹さん総合学科三年、近藤奈孟さん総合学科三年、原田光大さん研究学科二年）が来庁し、令和二年一月二十二日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。



この托鉢は、叡山学院生で組織された「玉泉会」主催の実践仏教の一環で「叡山学院寒行托鉢」として大津市園城寺町の園城寺（三井寺）門前から浜大津周辺にかけて行われている。

今回は、学生と職員合わせて二十二名が戸別托鉢を行い、七万七千七十一円の浄財が寄せられた。

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

令和二年二月五日、天台宗務庁において平成三十一年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催され、令和二年度一隅を照らす運動の事業計画、各会計の予算、規程改正案等が審議・承認された。

また、今回の理事会において任期満了に伴う会長・副会長・顧問の推薦があり、それぞれ再任され、理事就任の報告がなされた。

【会長】

大樹孝啓師 兵庫教区 圓教寺住職…再任

【副会長】

眞鍋幸意氏 天台宗檀信徒会会長 …再任

【顧問】

藤 光賢師 京都教区 曼殊院住職…再任

【理事】

三浦祐俊師 群馬教区 長福寺住職…新任

岩田真亮師 信越教区 領法寺住職…新任

荒樋勝善師 兵庫教区 白毫寺住職…新任

永宗幸信師 岡山教区 本性院住職…新任

井藤圭順師 兵庫教区 高家寺住職…新任

雲井雄善師 兵庫教区 能福寺住職…新任



◆一隅を照らす運動発足五十周年記念協賛協力者名簿（教区順・敬称略）

※令和二年一月二十八日現在

●一般

- サントリーホールディングス株式会社
- 代表取締役副会長鳥井信吾
- 陶茶房岸本昭一郎
- 株式会社遠藤新兵衛商店
- 医療法人社団仁生会甲南病院
- 岡田電気設備管理事務所
- 株式会社安田念珠店
- 嵯峨野観光鉄道株式会社
- おごと温泉観光協会
- 滋賀銀行坂本支店
- 関西みらい銀行坂本支店
- ヨシダ印刷株式会社
- 眞鍋幸意 庄司和子 山本一馬
- 二瓶和喜 山浦晟暉 波多米子
- 村山光永 杉江周作 木村慶次
- 多田澄昭 早坂孝一 黒川武志
- 犬塚みゆき 江崎密子 谷口 清
- 高田真紀夫 杉本 肇 高橋七三恵
- 山下幸子 木村 誠 坂本泰子
- 今井宏一 井上昌子 津田治子

●延暦寺一山

- 東塔 願成就寺
- 止観院 稱名寺
- 明徳院 蒲南部
- 延命院 石垣坊
- 蓮華院 光善寺
- 護心院 愛大部
- 西塔 智教寺
- 寂光院 金剛輪寺
- 非法人 浄國院
- 滋賀 第一部
- 湖西部 第二部
- 眞光寺 行願寺
- 安養院 大福寺
- 東光寺 黒谷教喜教会心行寺
- 眞迎寺 二尊院
- 野栗部 第四部
- 金勝寺 龍雲寺
- 甲北部 第五部
- 泉福寺 寂光院
- 甲南部 妙傳寺
- 慈音院 第一部
- 龍福寺 月照寺
- 蒲北部 本山寺
- 常照寺 神峯山寺

●京都

- 第二部 願成就寺
- 水間寺
- 第四部 多喜寺
- 願成寺
- 圓珠院
- 福藏院
- 大同寺
- 第六部 橋寺
- 兵庫 第一部
- 能福寺
- 與樂寺
- 日輪寺
- 實相院
- 第二部 和田寺
- 龍藏寺
- 第三部 極樂寺
- 楊柳寺
- 一乘寺
- 普光寺
- 悟真院
- 八葉寺

●岡山

- 第二部 梅林寺
- 第四部 延命寺
- 圓明寺
- 寶積院
- 斑鳩寺
- 第六部 蓮華寺
- 蓮華寺檀信徒会
- 非法人 無障金剛院
- 第二部 元恩寺
- 寶積院
- 正満寺
- 福田寺
- 第四部 圓乘院
- 圓珠院
- 泉勝院
- 大光院
- 第五部 石山寺
- 寶壽寺

●近畿

- 第一部 神峯山寺

- 山陰
- 第一部 靈仙寺
實相院
- 第一教部 無動寺
正平寺
- 第二教部 觀音院
眞光寺
- 第三教部 願成就寺
第五教部 萬福寺
第六教部 妙見寺
- 第四教部 清水寺
熊本部 延壽寺
長谷寺 長壽寺
福城寺 相良寺
- 第五教部 肥前東部 地藏院
肥前西部 願福寺
- 第六教部 三重一部 朝田寺
常住寺
- 第七教部 三重二部 觀音寺
佛眼院
- 第八教部 岐阜一部 岐阜一部 新善光寺
圓興寺
- 第九教部 岐阜三部 岐阜三部 不動院
- 第一教部 大日寺
觀照院
輪光院
三佛寺
- 第二教部 愛宕寺
鰐淵寺
- 四国
- 第一部 香古寺
大通寺
- 第二部 四國善光寺
神護寺
大宝院
光藏寺
鏡峰寺
- 第三部 佛性寺
西法寺
- 九州東
- 第一教部 神宮寺
養源寺
武藏寺
神宮院
東傳寺
- 第二教部 文殊仙寺
大聖寺
清淨光寺
- 第三教部 東明寺
成就院
- 第四教部 吉祥寺
大安寺
- 第五教部 大雄山南泉院
非法人
- 九州西
- 第一教部 筑前部 成就院
- 第二教部 肥前東部 肥前東部 地蔵院
肥前西部 願福寺
- 第三教部 三重一部 朝田寺
常住寺
- 第四教部 三重二部 觀音寺
佛眼院
- 第五教部 三重三部 觀音寺
佛眼院
- 第六教部 岐阜一部 岐阜一部 新善光寺
圓興寺
- 第七教部 岐阜三部 岐阜三部 不動院
- 東海
- 第一部 密藏院
第二部 觀音寺
法王寺
圓光寺
龍德寺
善光寺
根福寺
- 第三部 長養寺
一乘院
- 第四部 大黒寺
第六部 法華寺
神護寺
- 第七部 甲山寺
第八部 智滿寺
東光寺
普門寺
- 第九部 非法人
明光院
- 北陸
- 加能越部 藥王寺
- 信越
- 佐久部 東漸寺
長福寺
常元寺
松源寺
東明寺
神光寺
- 小泉部 小泉部 神光寺
- 國分寺 國分寺 長春寺
- 神奈川
- 川崎第一部 遍照寺
千藏寺
- 川崎第二部 川崎第二部 妙法寺
- 川崎第三部 川崎第三部 等覺院
妙樂寺
福昌寺
觀音寺
- 横濱北部 横濱北部 金藏寺
- 横濱南部 横濱南部 天王院
眞福寺
寶塔寺
寶泉寺
本覺寺
圓満寺
神武寺
觀藏院
慈音寺
- 相模第一部 相模第一部 天徳寺
命徳寺
養泉院
- 相模第二部 相模第二部 妙覺寺
大乘院
妙圓寺
天宗院
觀音寺(厚木市)
- 相模第三部 相模第三部 不動院

- 東京
- 第一部
 - 長命寺
 - 江東寺
 - 東江寺
 - 西光寺
 - 成就寺
 - 最勝寺
 - 龍眼寺
 - 第三部
 - 津梁院
 - 圓珠院
 - 等覺院
 - 春性院
 - 真如院
 - 見明院
 - 寒松院
 - 東漸院
 - 養壽院
 - 淨名院
 - 第四部
 - 大泉寺
 - 眞光寺
- 第六部
 - 壽福寺
 - 圓融寺
 - 寶塔寺
 - 養玉院
 - 安泰寺
 - 第七部
 - 普賢寺
 - 龍光寺
 - 深大寺
 - 西光寺
 - 大盛寺
 - 東光院
 - 圓住院
 - 千手院
 - 大圓寺
 - 寶泉寺
 - 第八部
 - 普明寺
 - 眞覺寺
 - 安養寺
 - 圓林寺
- 東部
 - 南藏院
 - 東榮寺(旭市)
 - 上和泉部
 - 泉養寺
 - 圓慶寺
 - 佛法寺
 - 善龍寺
 - 持法院
 - 下和泉部
 - 如意輪寺
 - 瀧水寺
 - 山之作部
 - 圓融寺
 - 多門院
 - 西福寺
 - 千葉部
 - 榮福寺
 - 西光寺
 - 東部
 - 笠森寺
 - 寶泉寺
 - 第三部
 - 眞光寺
 - 長榮寺
 - 本迹寺
 - 光明寺
 - 第四部
 - 西善寺
 - 長秀寺
 - 大原寺
 - 第五部
 - 妙音寺
 - 觀音寺(御宿町浜)
 - 萬福寺
 - 第六部
 - 常安寺
 - 福聚寺
 - 福藏院
 - 明見院
 - 第七部
 - 護國寺
 - 來迎寺
 - 安樂寺(ふじみ野市)
 - 勝福寺
 - 勝光寺
 - 實相院
 - 玉泉寺
 - 灌頂院
 - 一乘院
 - 最明寺
 - 第二部
 - 地福寺
 - 慈星院
 - 明圓寺
 - 東部
 - 大光普照寺
 - 立岩寺
 - 第九部
 - 圓能寺
 - 第七部
 - 慶福寺
 - 慈恩寺
 - 北総
 - 小見部
 - 德星寺
 - 東部
 - 眞光寺
 - 長榮寺
 - 本迹寺
 - 光明寺
 - 第四部
 - 西善寺
 - 長秀寺
 - 大原寺
 - 第五部
 - 妙音寺
 - 觀音寺(御宿町浜)
 - 萬福寺
 - 第六部
 - 常安寺
 - 福聚寺
 - 福藏院
 - 明見院
 - 第七部
 - 護國寺
 - 來迎寺
 - 安樂寺(ふじみ野市)
 - 勝福寺
 - 勝光寺
 - 實相院
 - 玉泉寺
 - 灌頂院
 - 一乘院
 - 最明寺
 - 第二部
 - 地福寺
 - 慈星院
 - 明圓寺
 - 東部
 - 大光普照寺
 - 立岩寺
 - 第九部
 - 圓能寺
 - 第七部
 - 慶福寺
 - 慈恩寺
 - 南総
 - 第一部
 - 延命寺
 - 報恩寺
 - 長覺院
 - 第六部
 - 泉福寺
 - 福正寺
 - 養福寺
 - 第五部
 - 圓光寺
 - 福正寺
 - 青蓮寺
 - 常安寺
 - 福聚寺
 - 福藏院
 - 明見院
 - 第七部
 - 護國寺
 - 來迎寺
 - 安樂寺(ふじみ野市)
 - 勝福寺
 - 勝光寺
 - 實相院
 - 玉泉寺
 - 灌頂院
 - 一乘院
 - 最明寺
 - 第二部
 - 地福寺
 - 慈星院
 - 明圓寺
 - 東部
 - 大光普照寺
 - 立岩寺
 - 第九部
 - 圓能寺
 - 第七部
 - 慶福寺
 - 慈恩寺
 - 群馬
 - 南前橋部
 - 西光寺
 - 北前橋部
 - 善勝寺
 - 光巖寺
 - 昌樂寺
 - 林倉寺
 - 大徳寺
 - 常圓寺
 - 西福寺
 - 寶門寺
 - 觀窓寺
 - 大福寺
 - 善性寺
 - 妙見寺
 - 長泉寺
 - 長松寺

- 高崎部 常清寺
- 石昌寺 東光寺
- 滿勝寺 龍善寺
- 安樂寺 長安寺
- 富岡部 世良田部
- 富岡部 普門寺
- 慶恩寺 下仁田部
- 北群馬部 清泉寺
- 眞光寺 安養院
- 金藏寺 常光寺(下仁田町宮室)
- 延命寺 明照院
- 不動寺 西群馬部
- 常泉寺 泉福寺
- 柳澤寺 觀音寺
- 東光寺 茨城
- 正善寺 第一部
- 沼田部 常樂寺
- 華藏院 妙法寺
- 延命院 養福寺
- 桐生部 第二部
- 善昌寺 千妙寺
- 善龍寺 大圓寺
- 覺成寺 第三部
- 世音寺 安樂寺
- 東前橋部 慈光寺
- 正圓寺 第四部
- 伊勢崎部 永福寺
- 善應寺 來迎院
- 第五部 妙香寺
- 第六部 安穩寺
- 永樂寺 永樂寺
- 第七部 東福寺
- 西光院 西光院
- 華德院 華德院
- 第八部 藥王院
- 如意輪寺 如意輪寺
- 圓福寺 圓福寺
- 東光寺 東光寺
- 長福寺 長福寺
- 護國寺 護國寺
- 西群馬部 西群馬部
- 眞岡部 眞岡部
- 圓林寺 圓林寺
- 般若寺 般若寺
- 莊嚴寺 莊嚴寺
- 常珍寺 常珍寺
- 城興寺 城興寺
- 小山部 小山部
- 光明寺 光明寺
- 壬生寺 壬生寺
- 栃木部 栃木部
- 延命寺 延命寺
- 廣泉寺 廣泉寺
- 牛來寺 牛來寺
- 佐野部 佐野部
- 大聖寺 大聖寺
- 藥師寺 藥師寺
- 觀音寺 觀音寺
- 德性院 德性院
- 明靜寺 明靜寺
- 寶増寺 寶増寺
- 宇都宮部 宇都宮部
- 東福寺 東福寺
- 光音寺 光音寺
- 光德寺 光德寺
- 正光寺 正光寺
- 智音寺 智音寺
- 普門寺 普門寺
- 感應寺 感應寺
- 東明寺 東明寺
- 足利部 足利部
- 龍泉寺 龍泉寺
- 吉祥寺 吉祥寺
- 正善寺 正善寺
- 德藏寺 德藏寺
- 寶禪寺 寶禪寺
- 福島 福島
- 第一部 第一部
- 圓満寺 圓満寺
- 常徳寺 常徳寺
- 覺壽院 覺壽院
- 不動院 不動院
- 日光院 日光院
- 觀音寺(福島市) 觀音寺(福島市)
- 寶積寺 寶積寺
- 最勝寺 最勝寺
- 第二部 第二部
- 觀音寺(二本松市) 觀音寺(二本松市)
- 觀世寺 觀世寺
- 法徳寺 法徳寺
- 高木寺 高木寺
- 岩角寺 岩角寺
- 觀音寺(本宮市) 觀音寺(本宮市)
- 金礼寺 金礼寺
- 圓福寺 圓福寺
- 満福寺 満福寺
- 西方寺 西方寺
- 上合寺 上合寺
- 金剛寺 金剛寺
- 延命寺 延命寺
- 第三部 第三部
- 永藏寺 永藏寺
- 西藏寺 西藏寺
- 景政寺 景政寺
- 慈眼寺 慈眼寺
- 第四部 第四部
- 圓福寺 圓福寺
- 藥師寺(会津美里町) 藥師寺(会津美里町)
- 天王寺 天王寺
- 第五部 第五部
- 日光寺 日光寺
- 南岳院 南岳院
- 陸奥 陸奥
- 第一部 第一部
- 延壽院 延壽院
- 満願寺 満願寺
- 光禪寺 光禪寺
- 東雲寺 東雲寺
- 藤田寺 藤田寺
- 興福寺 興福寺
- 大聖寺 大聖寺
- 第二部 第二部
- 觀音寺 觀音寺
- 觀福寺 觀福寺
- 黒石寺 黒石寺

一隅を照らす運動総本部だよ

利生院

大長壽院

毛越寺

葉王院

達谷西光寺

満福寺

天台寺

第三部

報恩寺

●山形

山形教区宗務所

○山形部

柏山寺

和光院

○屋代部

薬師寺

○新庄部

金剛樹院

●北海道

天台三井寺

○非法人

眞慧寺

●修験道法流

禅定林寺

●玄清法流

無動寺
山崎庵三宝山院

○非法人

妙音寺

●常楽院法流

常楽院

寶覚寺

【散華リニューアルについて】

宗報第三百三十号にて令和二年度よりデザインを一新する旨ご案内申上げましたが、在庫完売となりましたので、予定を前倒しし、今後は新デザインのもののご提供となります。

ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

